

KOCHI  
TECHNICAL  
HIGH  
SCHOOL

# 会報

No.54号  
平成27年2月



高知県立高知工業高等学校同窓会

# 目次

---

平成27年度同窓会総会のご案内・参加申し込み

ご挨拶 . . . . . 1

同窓会会長・校長・副校長・教頭

卒業半世紀 . . . . . 5

記念講演 . . . . . 11

会員だより . . . . . 15

支部便り . . . . . 21

平成27年度開校記念ゴルフ . . . . . 27

読書感想文 . . . . . 29

母校だより

進路指導部より . . . . . 30

進学指導部より . . . . . 32

部活動の成績 . . . . . 33

本部より . . . . . 34

高知県立高知工業高等学校同窓会会則 . . . . . 36

個人情報保護に関する方針 . . . . . 38

# 三本の矢

同窓会会長 包國 勝（昭和39年機械科卒）

戦国武将の毛利元就が、子の隆元・元春（吉川氏に養子）隆景（小早川氏に養子）に授けたという教え。一本の矢は容易に折れるが、三本まとめてでは折れにくいことから、一族の結束を説いたと言われていました。元就が発した三子教訓状が元となった逸話です。

第二次安倍内閣が打ち出した、いわゆる「アベノミクス」は、大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略の「三本の矢」の実行によって、デフレから脱却し経済成長の実現を目指すものとしております。現在は成長戦略である三本目の矢を放し、経済成長効果を期待しているところです。経済成長の現われの一つとして、企業の採用計画があります。

この春に卒業する高校生の求人、景気回復と人手不足を背景に6年ぶりにリーマンショック前の1.28倍に回復しました。もっとも母校高知工業高校の就職内定率100%は十年続いているようですから、内定状況に変化はありませんが、選択肢が多くなったことは大変喜ばしいことだと思っています。ただ就職希望の生徒には明るい兆しですが、大卒確保が難しいから高校生をとという人員確保が先に走ると、働き始めた後の労働条件が異なりトラブルやミスマッチが生じることになり注意が必要です。工業教育で学んだ生徒は、ものづくり日本を支える貴重な人材です。今後も卒業生が、安心してものづくりに打ち込むことのできる環境整備へのサポートは、多くの人材を輩出し、主要都市で活躍している先輩同窓生で構成する同窓会組織の役目でもあります。

そのためにも各支部との連携をさらに強化していかなければならないと考えています。

会員の皆様には、今後とも後輩のお世話を宜しくお願いします。

母校創立103年目を迎える年の同窓会活動として、組織の活性化、組織の健全運営、組織の共有化の「三本の矢」を実行したいと思っております。具体的には青年部の立ち上げで組織活動

の若返りを図るとともに、各支部との連携を深め、総会など各行事への積極的な参加を呼びかけることとします。健全運営については、終身会員の拡大を図ることや、企業広告を利用することで安定した収入を確保し、効果的な支出計画を立てていきます。組織の共有化については、できるだけ多くの会員の方に情報が提供できるよう努力すること。

そのために会報等の紙媒体だけでなく、ホームページの充実やフェイスブック等を利用し、若い会員との連携を図るなどであります。ホームページの開設は同窓会本部並びに各支部が主催する総会や、個々に開催されるクラス会、OB会等の最新情報を逐時掲載し、広く同窓生の皆様にお知らせします。また、多くの同窓生が本サイトへ参加し、同窓生相互のコミュニケーションの場となるようなサイト運営を目指します。開設のめどは2月末を予定しています。

27年度の総会の日程についてお知らせします。従来総会は本校の開校記念日である5月4日に開催しておりました。しかし大型連休の最中の開催は何とかして欲しいという多くのご意見をいただき、27年度の総会は4月29日（昭和の日）に開催します。開校記念日については学校側と相談し、全校生徒を対象にした開校記念の行事を計画していきます。長年定着しておりました総会日程の変更についてご理解いただきたいと思ひます。

今後とも会員の皆様のお知恵を頂き、開かれた同窓会として発展していきますよう、ご協力とご支援を宜しくお願いし、ご挨拶とします。



# ご挨拶

校長 横畑 健（昭和53年情報技術科卒）

同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと存じ上げます。また、日ごろから本校の教育活動の充実・発展のためご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

同窓生の皆様がそれぞれの地域・職場でご活躍されながら、母校に対しても気に掛けていただき、ありがたく、感謝しております。それとともに、学校を預かる者の一人としてその責任の重大さを感じ身の引き締まる思いがしております。

また、同窓会からは、100周年記念事業のための皆様方からの寄付金の一部を、学校の教育振興のために支援金として頂いております。この場をお借りして心から感謝しお礼申し上げます。皆様方の真心を教育振興のため有効に活用させていただきます。

日頃の生徒たちの様子、特に学校行事や各部活動の活躍状況、進路状況（就職・進学）などは、新たな体制を整えて逐次ホームページに紹介するようにしておりますので是非ご覧ください。

さて、本校は現在創立102年目を向かえ、更に基礎・基本を重視し、取組の「質を高める」ことに努めてまいります。そのための新しい取組として「イノベーションKT」と題した探求型学習を導入いたしました。これは高知工科大学との連携事業としての取組であり、本校での生徒育成の大きな柱ともなるものです。本年は新1年生を対象として順次学年進行で取組を進める計画です。

昨年度ほぼ1年間をかけて工科大の先生方と企画、計画を練り、実施については工科大の先生方はもとより学生などにもご協力いただき、1年学年団を中心として全校体制で臨んでいます。

目指すものは、「自ら学び、考え、行動できる生徒」の育成です。

私は、涵養という言葉で表される、水が自然に土にしみこむような教育によるものが最も定

着度も高く、かつあるべき姿だと思っています。

しかしながら、高等学校の3年間という限られた時間で、「社会に求められる人づくり」を行うためには、訓練という側面も重要であると考えています。今回のこの取り組みにより、生徒それぞれの良いところを伸ばし、不足する面を補完することも一定は可能であると考えています。

また、すべての分野で全国レベルでの戦いができる学校を目指しておりますが、指導にあたる教員の資質、指導力の向上がなくては成し得ません。そこで、本年度は全日制と定時制の教員を早稲田大学理工学術院（創設者の縁による）とポリテクカレッジ高知の協力を得て、1年間の研修を、加えてポリテクカレッジ高知では若手教員の短期技術研修も実現しました。

このように、生徒の意欲を高める取組み、中堅、若手専門科教員の育成を図る取組などにより、校訓「磨け学 技、鍛えよ体 徳、誇れ郷土」を教育の基として、確かな知識、技術・技能の定着を図るとともに、社会人として、人間として重要な、倫理感、規範意識、挨拶や協調性、コミュニケーション能力などを身に付けた、将来のスペシャリストの育成につとめ、高知県の、さらに日本の中核を担う工業高校として全国に誇れ、生徒たちが自信をもてる専門高校を目指してまいります。

新たな歴史を築き始めた母校に、今後とも同窓生の皆様には更なるご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、同窓生の皆様の益々のご活躍とご健勝を、ご祈念申し上げご挨拶いたします。



# ご挨拶

副校長 田頭 克文

同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動へのご理解ご協力賜り感謝申し上げます。

本年度、副校長として赴任してまいりました田頭克文（たがしらかつふみ）と申します。歴史と伝統のある高知工業高校で勤務できることに、喜びとともに責任の重さを痛感しております。

私自身は本校出身者ではなく、専門教科も保健体育なので、横畑校長をはじめ、松本全日制教頭、山崎定時制教頭に工業教育について教を乞いながらの毎日ではありますが、工業高校独特の職人氣質を感じさせる集団のパワーに日々元気をもらい、充実した毎日を送っております。

私は、かつて宿毛高校で勤務しておりましたが、宿毛市では、郷土の偉人である竹内綱先生・明太郎先生が作った学校として、高知工業高校のことが語られておりました。その学校に赴任できたことを大変嬉しく思います。

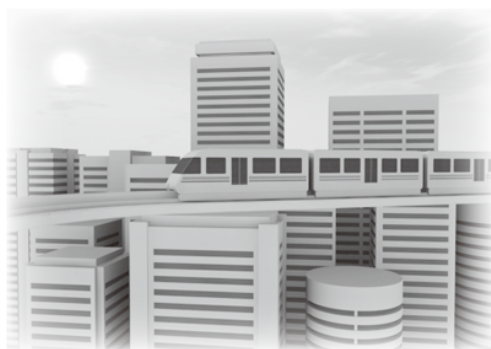
歴史がある学校だけに同窓会の方々と学校のつながりは深く、今年度もいろいろな行事でお世話になっております。特に9月6日に行われました就職試験の受験者対象の模擬面接には多くの同窓生の方に参加していただきました。これは、9月16日の就職試験解禁を前に、就職希望生徒の就職試験の最終段階の仕上げに各界で経験を積まれている同窓生の方々に面接官として参加していただき、本番に備えるという行事であります。各界で活躍されている方々を前にして生徒たちは緊張して面接に臨んでおりました。そして、先輩方からの適切なコメントをいただき、本番に向けての自信につながっております。本校は、現在13年連続で就職内定100パーセントを達成しておりますが、これは現場における教員や生徒の頑張りはもちろんですが、こういった同窓生の方々のご協力の賜物であると確信しております。

また、10月4日に行われました体育祭では同

窓生参加の種目として、優勝チームとの綱引きを行いました。多くの同窓生に参加していただき行事を盛り上げていただきました。体育祭は、土木科が29連覇を果たしましたが、体育祭は2年に1回なので半世紀以上負けなしという快挙です。これも、これまで先輩が築いてきた伝統を守ろうという気概がなせる業だと思います。こういった歴史や伝統を意識している学校は、近年少なくなっておりますが、大切な財産であると思います。

最後になりますが、今年度より、学校ホームページの充実に向け、担当部署をリニューアルいたしました。現在、最新の情報を、より多く発信するよう担当教員が努力しております。同窓生の方々にも是非一度ご覧になっていただきたいと思っております。

高知工業高校は、これからも高知県で最も歴史のある工業高校として、高知県の工業教育の中核を担っていきます。同窓生の方々には、今後ともご指導・ご協力いただけますようお願い申し上げます。





定時制教頭 山崎 貴雄

同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に対しましてご理解とご協力を頂きまして、心よりお礼を申し上げます。

私は、本年4月の人事異動で高知若草養護学校子鹿園分校より転入してまいりました。高知工業高校は、昭和63年から7年間、平成13年から11年間と、全日制情報技術科に勤務をしていました。今年からは、初めての定時制勤務ではありますが、合計で19年となり母校に戻ってきたような、そんなうれしさも感じております。創立から100年を超える高知工業高校、また昭和23年の学校教育法制定時に設置された本校定時制の約70年の伝統の重みを感じ、身の引き締まる思いです。微力ではありますが精一杯努めさせていただきますと思います。

さて、平成26年度は1年生16名、転入編入7名、建築科専修コースへ2名の合計25名の入学生を迎え、機械科31名、電気科20名、土木科22名、建築科20名、建築科専修コースへ5名の合計98名となっています。昨年に比べ30名の減となりました。

6月には、第62回高知県定時制通信制高等学校体育大会が開催されました。本校からはバスケットボールとバトミントンの2競技に参加しました。時間的な制約のある中、練習に取り組みましたが、今年度は残念ながらあと一步のところまで全国大会出場の権利を手にすることができませんでした（県選抜チームとしてバトミントンの団体競技に2名の生徒が参加しました）。しかし子どもたちは大きく成長しましたので、来年度は全国大会に出場できるものと思っております。

9月10日～12日に行われました土木学会全国大会橋梁模型コンテストにおきまして、社会人の一般企業チームが参加する中で、土木科3年生のチームが最優秀賞をとることができました。10月28日から30日に行われました近畿建設協会

主催の橋梁模型コンテストにおきましては、土木科4年生のチームが優秀賞に入賞しました。

10月16日に行われました高知県定時制通信制生徒生活体験発表会におきましては、建築科2年生の代表生徒が高知県高等学校長協会長賞を受賞しました。

これらは生徒の活躍の一部です。定時制という時間的な制約が大きい環境の中で、多くの生徒たちが様々なことに真剣に取り組んでいる姿は、大変誇らしく思います。

平成25年度は、14の資格にのべ58名の合格者が出ています。資格取得に挑戦することによってより専門性を高めることができます。また日々取り組むプロセスが大きな成長を促していきます。今年度も、資格取得を推奨していきたいと思います。また、働きながら学ぶことができることが定時制の最大の特徴といえます。本校は、全校の約7割の生徒が何らかの仕事を持っています。規則正しい生活を送るためにも就業を勧めていきたいと考えております。

最後になりますが、間もなく70周年を迎える定時制、今後とも同窓生の皆様のご支援とご協力を賜りながら益々発展していきたいと思っております。どうか、よろしくお願いいたします。



# 卒業半世紀 (昭和39年3月卒)

## 高知工業高校 卒業半世紀を振り返って

野島 信隆 (昭和39年機械科卒)

私は高知工業高校を昭和39年に卒業後直ぐに広島へ就職した事もあり、機械科同期の同窓会「39会」には何回も参加していますが、学校の同窓会総会に出席するのは初めてでした。

今回は、同期生の包国同窓会長から年賀状で同窓会への出席を誘われ、卒業半世紀にもなるので初めて出席させて頂きましたが、実家は他人に貸している為、宿泊は妹の家と同期の田處健次君の家に泊めて貰っての出席でした。

前日に「39会」の同窓会が帯屋町の「帯や勸助」であり、29名で旧交を温めた上、当日同窓会総会に出席して、恒例の記念撮影を行い、懇親会に参加しました。

私達の昭和39年卒業生は、第2次世界大戦の終戦の年かその次の年に生まれており、翌年以降の団塊世代前の、人数が少ない年代でしたが、高知工業高校で過ごした3年間は、学業にクラブ活動にまた友達との遊びにと、大いに青春を謳歌し、充実した高校生活でした。

卒業した昭和39年は高度成長の直前で、東京オリンピック開催年でもあり、世の中が活気あふれる年でした。卒業生の殆どが県外に出て色々な企業に就職したり大学に進学しましたが、高知工業高校で学問の基礎と専門教科をしっかり教えて頂いた事と、高知工業高校の恩師や先輩方に助けて頂いたお陰で、定年まで無事勤めを果たす事ができました。

私の場合は、東洋工業(株) (今のマツダ(株))に就職できた事、卒業と同時に広島大学の第2部に入学した事、希望通りロータリーエンジン設計課に配属された事、技能オリンピックの広島県代表に選ばれた事、何かにつけて高知工業高校の先輩に可愛がって頂いた事、担任の徳久先生に人生の転機に相談に乗って頂いた事などです。

この様な事は卒業生の誰もが、大なり小なり経験されている事だと思います。本当に高知工業高校の卒業生で良かったと思っています。ありがとうございました。

私は会社ではロータリーエンジンの設計など開発に17年間、購買でバイヤーやスタッフを24

年半務め、新車開発やVEにも携わって楽しい41年半を過ごす事が出来ました。特に定年前には愛知万博「愛地球博」が名古屋で開催され、自動車工業会に出向し自動車工業会のパビリオンの館員を務めた時には、若いアテンダントやスタッフ達と一緒に楽しく仕事をし、毎日仕事の前後には他のパビリオンを見学して、海外旅行に行っている感じで、良い思い出となりました。又、会社の役員や取引先の方々が来館される時には、希望を聞いてスムーズに見学出来る様に手配して、大変感謝されました。

私は若い頃は仕事をしながら、大学の夜学に通い勉強すると共に、仕事関係等の資格を数多く取りましたが、自信になって仕事を進める上で大きなバックボーンになりました。

又、仕事一筋でなく、趣味や地域貢献にも取り組み、登山やソフトボールを楽しみ、地域でもお世話をしてきました。登山関係では会社の山岳部長を務め、部員だけでなく、社員やOB・家族の方々を登山に引率して楽しんで頂き、その延長で広島県山岳連盟では普及部長を担当し、普及活動やひろしま国体の世話をし、副会長を務めています。公益社団法人日本山岳会では、広島支部の副支部長・総務本部長を務めて山を楽しんでいます。又、中国新聞文化センターの登山講座の講師を11年間努め、毎月受講生を引率して近くのハイキングを楽しんでいます。更に、ボランティア活動にも積極的に取り組んで、里山の環境整備や「山の日」を国民の祝日にする活動などを行なうと共に、会社の部課長OB会の事務局や地域OB会の事務局を引き受けて、皆さんのお世話を続けています。

我々は卒業50年を迎え、来年には古希を迎えますが、今後とも健康に留意しながら、家庭を守り、趣味や地域貢献・友達との交流など、残された人生を楽しみたいと思います。

高知工業高校も2年前に100周年を迎えられましたが、今後とも益々発展される事を祈念して卒業半世紀報告とさせて頂きます。今後ともよろしくお願い致します。

## 卒業後半世紀の思い出

小松 正浩（昭和39年電気科卒）

過ぎてしまえば早いもので、昭和39年の卒業からもう50年が経ってしまいました。毎日の生活に追われながらも、何とか健康に過ごすことができることをうれしく思っています。

私は母校を卒業して富士通信機製造株式会社（現富士通）に就職し、川崎工場の材料研究部というところに配属されました。主に磁性材料を使った記憶素子の研究開発をやっている部門で、大学卒・大学院卒が大半を占める中で、高卒の私は補助的な業務に従事しました。

希望していた部門ではなかったのが少々がっかりしましたが、上司や先輩は予想外（？）に優しく、毎日が新しいことの連続でした。特に英語の文献が読めるようにと指示され、必死で辞書を引いたことも懐かしい思い出です。

母校卒の社内の先輩が開いてくれた歓迎会で酒というものを覚え、その道だけは自主的に勉強が進んだようです。そのうちに人並みに恋をして青春を楽しく過ごし、いつの間にか家庭も持つことができました。

特にこれという不満もなく12年ほど同社に在籍しましたが、田舎育ちのためか都会の生活にはどうしても充足感を覚えず高知に帰りたいたいと思うようになり、勇気を出して妻に切り出すと、何とかなるでしょうという返事をもらうことができ、Uターンを決めました。

なお、当時の上司や同僚とは今でも手紙やメールで親交があり、同窓会的なものが数年ごとに開催されており、そのたびに声がかかるので都合のつく限り上京しています。

ところが、富士通を辞めても高知に適切な電気関係はなかったので、仕方なく生コンクリート会社に就職しました。給与は都会の6割くらい、休日も少なく、今でいう3Kの業種ということで、周りの者からは、「エラく畑違いだが大丈夫か」といわれました。しかし、分野が異なるとはいえ、従事したのは技術関係であり、国語や物理や化学の基本さえ理解しておればど

ういう世界でも通用することを身をもって感じることはできたのは収穫でした。現在は生コン工場を退職し、その業界団体の組合で、総務・経理から技術の一部までを担当しています。あと何年か、特に支障なければ勤めさせていただきたいと思っています。

私たちが母校で学んだ当時は水銀整流器や真空管でしたが、今はダイオードやトランジスタを経て大規模集積回路に変わっています。富士通入社当時はキロバイト単位であった記憶装置の容量は今やテラバイトと $10^9$ 倍にもなっていません。

昔は想像できなかったカーナビやスマホなどが行き渡るなど、電気の世界の日進月歩には驚くばかりで、とても付いていけなくなりました。もちろん、他の業界にしても同じことでしょうが、10年先、20年先の世の中はいったいどのように変化しているのでしょうか。

私たちの世代はちょうど日本の高度成長期に合っていたという意味では、時流に乗った運のよい世代だったのかもしれませんが。

私たちのクラスは、母校同窓会事務局長を務める澤君を始めとする世話役のご労苦で定期的に同窓会を開いていますが、何人かはすでに亡くなっています。

私はこの歳になっても、いろんなことをやりたい、見たいという気持ちは失せず、休日には天気さえよければ妻と2人であちこち出かけています。出歩けば、何か必ず新しい発見があるのです。これからも今まで以上に多方面に興味を持ち、元気で毎日を過ごしたいと思っています。

最後に同窓生諸氏のご活躍と同窓会のますますの発展を祈念いたします。



## 化学から土木設計へ 卒業から半世紀を振り返る

福永 泰久（昭和39年工業化学科卒）

私たち工業化学科の昭和39年の卒業生は毎年同窓会を開催しています。10年以上続けていて、所在不明だった同級生も少しずつ情報が集まり45名の卒業生の中で、消息がわからない人は5名となっています。毎年同窓会の参加者数は15～20名で、原則として11月の最後の土曜日と決め、高知県内と同窓生の住んでいる県外とを交互に開催しています。故人は2名、癌や心臓病、クモ膜下出血等の脳の病気など、重大な病気の同窓生も数名おり、毎年同窓会の話題が健康になってきています。

さて私ですが、卒業と同時に徳島大学薬学部製薬化学科に入学しました。薬剤師を目指したわけではなく、物理、化学の配点が高く、一番合格しそうなところ探して決めました。

大学に入学して驚いたことがあります。それは、必修教科として、製図、機械工学、電子技術などがあったことです。徳島大学の製薬化学科は、旧制の徳島高等工業学校の製薬化学科が新制大学に変わったもので、薬の製造技術者を育てるために設立したために、それに応じた教科があったわけです。大学1～2年生の教養課程では、工業高校で授業時間が少なかった英語、国語などで苦労しましたが、専門課程になると、先述の製図などの科目の授業は楽でした。しかし、他の学生は苦労していました。また、無機化学や有機化学の講義だけでなく、化学分析実験、化学合成実験、物理化学実験なども、非常に楽でした。特に、実験のレポートは、方法・結果・考察に分けて記述していたことが、多くの先生方から褒められました。卒業研究は物理化学研究室へ入りましたが、私の得意な電子機器の組み立てを伴うものでしたので、半年で卒業論文が終了しました。そのため、さらにもう1題卒業研究をして、2論文提出しました。

大学時代のクラブ活動は山岳部で、四国の山や北アルプスを中心に、雪山を含めて四季にわたって登っていました。所卒業後は大学院へ進学しましたが、これは外国の山へ登る（海外遠

征）ためでもありました。

徳島大学大学院（薬学研究科）を終了した後、指導してくれた教授のすすめで、高松の製薬会社に就職しました。最初の3年間は研究開発部で「金属複合水酸化物の触媒作用」の研究を担当し、特許をとって終了しました。そして、製造部へ移動となり、管理薬剤師として、毎月の製造計画を作成するとともに、公害防止管理者の資格を取ってその責任者を勤めました。その会社で5年目に入ったとき、公害防止の責任者として検挙され、また組合活動でも行き詰まりで嫌気がさしていました。

そうしたとき、環境計量士の資格をとったことから高知市に設立され、水質、大気、騒音・振動などの環境調査をする(株)西日本科学技術研究所に昭和51年に転職しました。会社の業種としては建設コンサルタントに分類されます。その後、薬学の知識を生かして、魚類・植物・昆虫などの生物の調査も事業として取り組み経営の柱にしました。これは、全国のコンサルタントでも最も早いものでした。

昭和63年に川を自然に戻す「近自然河川工法」をスイス・ドイツから日本に紹介したことから、私は河川の設計を担当することになりました（2年後に国土交通省は多自然型川づくりとして取り組み）。高知市にある小さな会社が、この分野で日本の先頭を走るようになったわけです。私が河川の設計をするときにも、先述の工業高校・大学で学んだ製図・機械工学・化学工学などが役にたちました。この土木業務を25年間続けましたが、化学・生物の知識を基礎にした土木事業の計画・設計は多くの発注者から注目され賞賛されました。建設コンサルタントとして、仕事をするために必要な資格である建設部門の技術士も取得しました。このように、私の場合は工業高校で学んだ教科が大学で役立ち、仕事にも活用できました。定年退職した現在、「役にたたない教科はない」、いかに役立たせるか、本人の自覚・意識が重要だと思っています。

## 39年度土木科卒業 回想録

渡辺 将弘（昭和39年土木科卒）

卒業して50年の歳月が過ぎております。  
数多くの思い出の中で強く印象に残っているものについて述べさせていただきます。

### 1) 学校時代について

当時の学校長は戸梶<sup>とから</sup>先生でした。

教頭の道願先生には国語を教えて頂きましたが立派な先生でした。

人文地理は藤原先生で万年、地理を担当しておりましたので“万地<sup>まんち</sup>”先生と呼んでおりました。

京大卒との事でしたが、吉本喜劇出身ではないかと思われるほど、笑いに富んだ授業でした。

国語の加賀井先生は剣道界の重臣で、家系は土佐藩の家老で現在の加賀の井田地にあったようです。

まだ多くありますが省略します。

私共の土木科においては、村山先生・石川先生・田村先生・善万先生・宮田先生・北岡先生でした。

シベリアに抑留されていた石川先生は持ち帰った書物の翻訳をしておりました。

村山先生は土木界の大御所で、我々には大きな影響を与えております。

又、宮田先生は新任でしたが技術士・博士号を取得され、頭の下がる想いがあります。

運動会においては土木科が毎年優勝しておりました。

土木は45名、機械・電気は各90名でしたが、数では劣勢であり勝てるわけがないと思いません。

軍師、黒田官兵衛を観ておりますが、土木業界は指示・方針に対しては組織における団結力が強く、まとまりがあります。

当時の先生は“エライ”方々が教壇に立っており、人を育てる環境に我々、生徒がおったと言う事と思います。同窓会のメンバーと時々、

酒を酌み交わしますが、みんな立派な人物になっております。

### 2) 就職・土木業界

当時は高度成長時代であり、県外での就職が一般的でした。

私は先生の推薦もあり、兵庫県の新井組に就職しました。

その頃は、建設省の道路改良工事が多く高知～高松間・松山間等で1 km～2 kmの工区割で各ゼネコンが施工しておりました。

現場のコンクリートは、砂利・砂のサイロを設置し、21切ミキサー（0.3m<sup>3</sup>）を三輪車で運搬し、擁壁等を仕上げておりました。

早朝5時半にミキサーを回し、サイロの砂の自然含水比を求め、現場配合を決めておりました。

作業は朝7時に始まり、終わりは夜中12時頃までの続き、休みは盆と正月のみでした。

いちばん年下でありましたので1日20～30回怒鳴りつけられ、鍛えられました。スパルタ教育であります。

切土の丁張りは対数表を現地に持って行き、野帳での手計算で行い、水平距離を求め、丁張りをかけておりました。

又、事務所で、タイガーの計算機でチェックを行い、唯一のチェック機械でした。

とにかく寝る間がなかったので、かなりのハングリー精神でなければ持たなかったと思えました。

6年間のバスケットで鍛えた体力・精神力で何とか凌げたのではないかと考えております。

(株)新井組ではなく(株)荒井組でありました。

2年先輩の大谷さんに可愛がって頂き有難く思っております。

学校の教育ですが机上の勉強だけではなく、工事現場へ出させて多少でも経験さす事が必要だと思えます。又、大学卒より高専卒の方が実

実践向きです。土佐の県民性は正義感が強く、中々言い出したら後へ引かない所があります。正しい事で良い事です。腹八分で止め置いた方が良いかと思えます。

“営業について” 53才より下水道工事の内、中口径の長距離推進（1スパン500m以上）の営業をやっております。工事の場合は、工事設計書に基づいて着工して行くわけで、完成した暁には、大変嬉しいものです。ここに生きがい・やり甲斐があるわけでありませぬ。

営業の場合は形がありません。1件受注するのに情報収集をし、何人かの人に世話にならないと受注できません。それ故に日頃から人間関係・信頼関係が大事になってきます。

ただ値段が安いだけではいけないと言う事です。私が心掛けて居るのは良い仕事をする事です。

又、相手方との信頼・誠意ある対応であります。又、元請への利益も必要となります。

この事が出来れば自然と仕事が回って来ます。

### 3) その他

#### イ) 人命救助について

昭和56年4月7日建設省岡山河川工事事務所の百間川改修工事において、私が35才の時、3歳の女の子を助けたことです。

川中は80m程で、川の中央部を上向きで流れており、当社の社員・作業員もおらず作業服のまま飛び込み、女の子を抱えながらどうにか岸まで辿り着きました。辿り着くと女の子は気を失って居りましたので、もう駄目かと思つて鼻に手を当てると僅かに息がありましたので何とか助かると思ひました。

そこから1割の護岸ブロックを登り切るのに何度も滑り、どうにか登り切りましたが、精も根も尽き果てました。救急車に引き渡してから気が付きましたが、長靴を脱ぐのを忘れており、まだまだだと思ひました。この件で女の子は、死地から甦った事で人を助ける仕事に就きたく大学の看護科を出て看護師となり岡山市内の病院で活躍しております。

警察署長より『あなたが死刑の場合は一等減じて無期懲役になりますので知っておいてください』との事でした。スピード違反の際、2か月の免停になり1か月は少なくなりました。

#### ロ) 美術館・屋外モニュメント公園工事に携わり彫刻家との出会い

場所は尾道市御調町です。地元出身の彫刻家<sup>えんつば</sup>で円鏑勝三先生の作品を展示しております。

日本美術学校卒業、多摩美術大学教授、日展常務理事、勲三等瑞宝章、日本彫刻会理事長、文化勲章受章がプロフィールです。

私が先生と出会ったのが平成5年でした。屋外モニュメントが6か所ありました。

この中のブロンズ像でしたが、助役は1億円にして頂いたと言っておりました。

私の見積りでは、どう見ても100万円位と踏んでおりました。

この先生より色紙をいただき『積み重ね・積みかさね・積み重ねた上にも又積み重ね』という言葉であります。先生が88才でこの心境です。私が47才でした。この言葉は、“まっこと”心を打ちました。

先生は木彫刻作品を得意としております。現在、広島駅前・尾道駅前にブロンズ像を展示しております。

私の39年度土木課の中にも残りの人生をこの木彫刻に打ち込んでいる人がおります。

伊与田耕作さん、松下彰次さんです。私は、この両者の作品は万人に見事と絶賛されると思ひます。

円鏑先生の作品はどう見ても理解できんところが多々あります。ものを作る上では同じだと思ひますが、先生の作品は芸術（美を創造・表現する）ということが加わっていると思ひます。

私の積み重ねが、まだまだ足りないと言う事でしょう。人生これからであります。



## 卒業半世紀の回顧 高知工業高等学校の卒業生で良かった私

岡田 良夫（昭和39年建築科卒）

私達、昭和39年度卒業組の卒業半世紀を同窓会総会でお祝いをして頂きまして、誠に有難うございました。お世話をして頂いた関係者の皆様に衷心より御礼申し上げます。

当日、私達建築科卒業生の参加者は、県内6名、県外5名の11名でした。（卒業生41名うち県内在住者16名 県外在住者11名 連絡先不明者6名 物故者8名）半世紀振りに再会をした者もあり、皆で昔話、家族や健康の大切さの話に花を咲かせて楽しい一時を過ごす事が出来ました。

私の高校生活は、野球部で全国高等学校野球選手権大会（阪神甲子園球場）の出場を目指して日夜練習に励んだ事が全てでした。私がレギュラーに成った2年生3年生の時は高知商業高校、高知高校、土佐高校と並び4強でした（高知県体育大会では雨天中止の為、4校優勝）。

2年生、3年生とシード校として高知県大会に望みましたが、2年生の時はプロ野球の東映フライヤーズ、読売巨人軍で活躍した市商の高橋義正投手に準決勝で敗れ、3年生の時は後にNTT四国で選手、監督として活躍した我が軍のエース武田投手が、夏の県予選の前に肩を故障し残念ながら甲子園大会出場の夢は叶いませんでした。

（高知商業高校には、公式戦で延長18回、延長13回、延長15回日没引き分け再試合と接戦はするのですが勝てませんでした。）けれど私は、幸運にも第45回全国高等学校野球選手権大会高知県予選の開会式で、選手代表として選手宣誓を行うという名誉を賜り感激をした事でした。

現在は、お世話になった高校野球界へのお返しの気持ちとして、高知県高等学校校野球連盟審判部で審判員をさせてもらっています。また、私自身は草野球で現役選手としてプレイしています。

そして、憧れの阪神甲子園球場で行われた、第18回国際RC野球選手権大会で出場40チームの頂点に立つ事が出来まして感無量でした。

社会人としては、(株)ASA設計事務所に奉職して母校の校舎、管理棟、各科実習棟等の設計に参画するという榮譽に恵まれました。

また、ASA設計事務所の社長が病弱だった為に、30歳から40歳までの10年間は代表取締役としてスタッフ11名の設計事務所経営を行いました。其の事は、その後の私の人生にとって大きな財産と成りました。

そしてASA設計事務所を創業者一族にお返しをして40歳の時に一念発起して(株)岡田設計を設立しました。

その後、後継者が居なくて廃業の危機を迎えていた伝統の有る(有)ライト建築設計事務所を吸収合併し、(株)ライト岡田設計の社名で現在に至っています。創立30年と成りました現在は息子に社長職を任せて会長として邪魔に成らない様に勤務をしています。

振り返ってみれば、土佐中学校に39回生として入学してから、親の離婚等紆余屈折色々有りましたが、野球を愛する事により乗越える事が出来ました。高知工業高校建築科で学んでいなかったら、野球部に入っていなかったら、沢山の方々との出会いと友情が無かったら、私の人生はどうなっていたかと思うと感慨深い物があります。

私が今日あるのは、母校の野球部監督森実先生を始めとする恩師の方々の御蔭で有ります。そして若輩の私に会社経営を負託してくれた(株)ASA設計事務所の創立者（田中 健志様）、高知青年会議所、ロータリークラブのメンバー、高校野球関係者等々人々との出会いの御蔭で有ります。その結果、現在高知県民注目の建築で有ります、県・市合同の新図書館建築工事の設計監理業務という大変名誉な仕事を担当させて頂いています。

衷心から高知工業高等学校と野球部に感謝しています。

これからは好きな野球、ゴルフそして友人、知人、家族、最も大切な人と人の出会いを大切に人々の財産と安全、健康を守る建築設計に励みたいと思っています。

伝統ある高知工業高等学校の益々の発展と同窓生の皆様の活躍とご健勝を御祈念致しまして卒業半世紀の回顧と致します。

# 記念講演より



## 楽しまんと! はた博

講師 福田 充 (昭和44年建築科卒)

### はた博の目的・取組概要

- ・私たちは、これからの幡多地域の観光振興を担う人材であるという自覚を持ち、この観光キャンペーンに主体的に取り組みます。
  - ・私たちは、地域エゴや組織エゴにとらわれることなく、自治体や組織の枠を超え、顧客志向をもって協力・連携します。
  - ・私たちは、お互いの立場を尊重して議論していきます。会議で異なる意見が出た場合には「否定だけ」の発言ではなく、「こういう案もありますよ」と建設的な発言を心掛け、合意形成を図ります。
- 以上の3点を念頭に取り組みを始める。

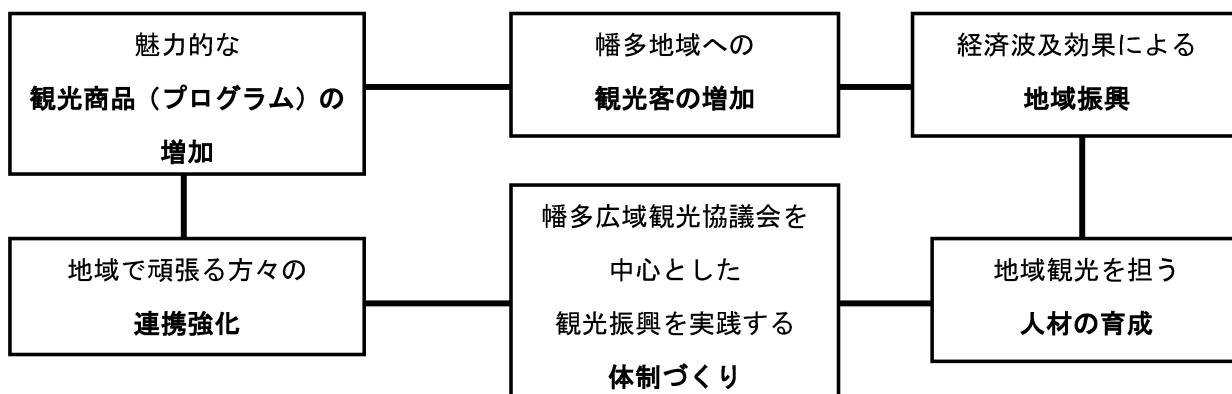
### 1. 目指すもの

遠いからこそ残っている自然豊かな風景や人々の心を癒す“幡多時間”…そしてこの地で暮らす人々によって培われてきた歴史や独特の文化。この素晴らしい魅力ある地域財産を、地域の誇りと愛着を持って観光資源へと磨き上げ「ここですか」、「その時しか」体感することのできない「本物の魅力」があふれる観光地を目指すことと、幡多広域観光協議会を中心に、行政、観光協会、経済団体をはじめとする地域住民が一体となって、一市町村では成し得ない広域観光圏を目指し、新しい発想の広域観光キャンペーンを行いました。



### 2. 目的

幡多地域は山・川・海がそろっており、立地条件を生かした観光地として多くの人に認知される為に、住民が主体となって、域内6市町村の個々の観光力を高める取り組みによって幡多地域の活性化を図る。



### 3. 運営組織

幡多地域観光キャンペーン実行委員会・幡多地域観光キャンペーン企画委員会の2つを設置。地域活性化プロジェクトとして、市町村グループ・誘致受入グループ・企画グループを設置。

全てを統括推進するための事務局を設けた。

### 4. 幡多地域観光キャンペーン実行委員会の活動

## 「はた博」キャンペーン&イベント一覧

●正式広報前の内容資料につき、名称は変更する可能性があります。

	6/29・6/30	7	8	9	10	11	12	
キャンペーン	宝探しプログラム	～幡多の宝「ホウパイ」争奪！宝探しゲーム！～ 6つの暗号を解読し、幡多6市町村に隠された宝箱を探し、豪華商品をゲットしよう！ 上期 (7/1~9/30 消印 (又は提出) 分) ⇒10月中旬当選発表      下期 (10/1~12/31 消印 (又は提出) 分) ⇒1月中旬当選発表						
	500円グルメクーポン	「はた博」公式ガイドブックに掲載されている「グルメクーポン」を提示。 (郷土料理やおすすりランチやスイーツセットが500円ポッキリで楽しめるお得なキャンペーン)						
	自然体験プログラムの祭典	四万十川カヌー下り、カツオの薫焼きタタキ、ホエールウオッチング、体験ダイビングなど、幡多エリア自慢の体験プログラムを満喫しよう！						
イベント	楽しまんと！はた博プレイベント	早いもの勝ち！期間限定スペシャルプログラムが大集合！ <b>『はたの夏休み 2013』</b> 前期 (7/19~8/11)      後期 (8/16~9/15) ・「げ〜んぶ四万十川」3日間スペシャルツアー、クジラの先生がご案内！黒潮ホエールウオッチング体験 ・透明な海と島ごはんを楽しむ「鶴来島の休日」プラン ・電車プレミアムビーチで絶景バーベキュー ・四万十川のほとりで「ソーメン流し」体験、ほか						
	6/29 みんなで楽しまんと！大宴会	大月町 10/5~10/6 高知のはしっこ！ええけん！大月	三原村 11/3 食と酒の宴 幡多のでべそで楽しまんとどぶろく農林文化祭	ステップアップイベント				クリスマスイルミネーション企画
	6/30 RKC子育て応援団すこやか2013 in はた	四万十市 10/11~10/14 自転車・カヌーで四万十川全行程制覇ドラゴンラン	宿毛市 11/17 高知西南特産品まつり&四国B級グルメ祭	地域対抗6の字駅伝				
	宿毛市 6/30 ★宿毛湾マッスル黒鯛(チヌ)ダービースタート	黒潮町 7/7 星降る砂浜美術館 砂と光のアート展 ★みんなで作る砂像！	土佐清水市 8/2~8/3 清水のおきやく&花火大会 ★血鉢早食い競争あり	三原村 9/8 ★ニッポンの「田舎あそび」運動会	宿毛市 10/12 ★チヌダービー結果発表	四万十市 11/9~11/17 四万十おきやく映画祭	大月町 12/22 ★握りずし大食い競争	
		土佐清水市 9/22 グルメ・アート・ミュージック 土佐の豊穡祭 2013 はたフェス	黒潮町 10/19 うまいもんが待ちようき！土佐さかのもどりカツオ祭	四万十市 11/3~11/24 土佐の小京都で 一條大祭 無礼講月間	・楽しまんと飲まんとお座敷大交流会 ・四万十いちじよさんマルシェ & 一輪餅はしご酒 ・西土佐うまいもの商店街 ・カヌー逆走レース大会あり			
		★マーク解説： ★マークは旅行者と地元の人々が一緒になって記録を残したり、競争したりする参加型のチャレンジイベントだびー。家族や友人を誘ってみんなで参加しよう！待ってるびー！						
		前期：田舎あそびを楽しまんと！			後期：ふるさとの恵みを楽しまんと！			

実行委員会の活動として、関西・中国地域在住者で、20代~40代前半で子供がいるファミリー層をターゲットとして、参加型のイベントに取り組んだ。

イメージキャラクターを全国公募によって決定。



ラッピングバス（高速バス「四万十ライナー」）



はた博プレイベント（来場者数：約5,400人）

## 5. オフィシャルイベント

オフィシャルイベントとして、7月7日星降る砂浜美術館★砂と光のアート展（黒潮町）を皮切りに、以下のイベントを行った。



7月7日 星降る砂浜美術館★砂と光のアート展  
（黒潮町）



8月2日～3日 清水のおきゃく&花火大会  
（土佐清水市）

8月2日～3日 清水のおきゃく&花火大会（土佐清水市）

9月22日 グルメ・アート・ミュージック土佐の豊穰際2013はたフェス（土佐清水市）

10月19日 うまいもんが待ちようき！土佐さがのもどりガツオ祭（黒潮町）

11月3日 食と酒の宴 幡多のでべそでたのしまんと どぶろく農林文化祭（三原村）

11月17日 高知西南特産品まつり&四国B級グルメフェスタin宿毛（宿毛市）

また、以下の参加型イベントも行いはた博を盛り上げた。

8月18日 最高気温「日本一」記念企画 辛なべ焼きうどん早食い競争（四万十市）

9月8日 ニッポンの「田舎あそび」運動会（三原村）

12月22日 大月の幸を味わいつくせ 大食い早食い選手権（大月町）

キャンペーン企画として、宝探しゲームを行い、1141通の応募があった。



抽選会の様子



## 6. 入込結果

観光客の入込数については基本計画において、対前年比30%、約40万人増を定め、各市町村グループを中心に関係者が一丸となって、目標達成に向けたイベントの魅力アップを図るとともにプロモーションに取り組んだ結果、対前年比と比べ16%、約20万人増の1,465,371人となった。

宿泊者数については10%増を目指し、エージェンツへのセールスや、はた博と連携した宿泊プランを造成するなどの取り組みを進めた結果、対前年比4.3%、約5千人の増（119,218人）となった。

## 7. 広域観光推進体制

準備会を経て「楽しまん！はた博」の原点となる基本計画書は作成されたが、これには行政を始めとする観光関係者、経済団体、民間企業等、観光に携わるより幅広い関係者の意見を集約することができ、これまでに例のない画期的なことであった。

## 8. さらなる飛躍に向けて

はた博の取り組みを通じて、魅力ある観光資源を活かしたプログラムづくりを進めるとともに、ガイドブックやテレビCMなど多様な広報媒体を活用し、ターゲットを絞ったPRをすることで、入込増につながる立証された。

また、この取り組みで行政、観光協会、経済団体をはじめとする地域の関係者が一体となり、広域連携における取組の中で観光従事者の意識レベルの向上、観光商品のさらなる磨き上げ、組織体制の在り方、地域住民の参加、受け入れ態勢の強化など、幡多らしさへのこだわりを推進していく広域観光圏づくりの土台ができた。

こうした「はた博」の成果を一過性のものとせず継続していくためにも、高知県西南地域の広域観光振興を担う一般社団法人幡多広域観光協議会を中心に、関係者が一丸となって、幡多観光のブランド化を進め、広域観光地として全国から選ばれるエリアとしてかいはなくてはならない。





## 遠距離介護

森田 保夫（昭和35年機械科卒）

同窓会会員の皆様には日々お元気でご活躍の事とお喜び申し上げます。同窓会本部役員の方々には日頃より同窓会の維持発展にご尽力賜り誠にありがとうございます。

私は介護の適職を得て11年目を努めさせていただいております。今回、これまでの介護経験の中から「遠距離介護」についてお話をさせていただきます。

### 1. はじめに

「遠距離介護」とは耳慣れない言葉かと思えます。郷里に年老いた両親あるいはひとり住まいの父又は母を遠く離れた都会からお世話をする介護です。

或る日、突然に職場や都会の住まいに郷里の包括支援センターから「お母さんを一人住まいにするのは危険です」とか郷里の掛かりつけの医師から「あなたはこのままでは事件、事故を待っているようなものです」と告げられたら恐らく『覚悟はしていたが、こんなに早くそれがやってくるとは』と、覚悟次第ではパニックに陥ることにもなろうかと思えます。すぐさま頭をよぎるのは仕事は続けられるか、家介護保険族はどうするか次々と難題が降りかかってくる可能性があります。今回は両親が元気なうちから日頃よりどのように心がけて、いずれは親の介護に正面から取り組んでいく方法について紹介させていただきます。

### 2. 目次

遠距離介護の事例は一つとして同じものはありません。今回は郷里に何らかの仕事をしながら暮らす両親と兄妹の二人がそれぞれ都会に家庭を設けているケースで話を進めてまいります。

- (1) 両親が元気なうちからコミュニケーションをとる
- (2) 親の加齢と共に支援方法を親・兄妹夫婦で協議し実行に移す
- (3) 遠距離介護の費用
- (4) 遠距離介護と仕事の両立
- (5) 家族の協力

### 3. 1 両親が元気なうちからコミュニケーションをとる

#### (1) 定期的に帰省し親の様子を掌握しておく

- 日頃から健康状態や持病があれば一緒に通院し症状や投薬内容、回復状況を医師と相談し正確に把握する又薬の服用は正しく行われているかそれとなく観察し飲み忘れ等が無い、自分で規則正しく服用しているかに注意
- これまで自分で出来ていたこと出来なくなっていないか
- 会話やテレビやラジオ等娯楽嗜好に変化はないか等々

#### (2) 普段の親の生活パターンを知っておく

- 生活の乱れは無い。これまで通りに営まれているか

○冷蔵庫の中身は管理されているか

○部屋の片付けはこれまでと変わりはないか等々変化に気づくチェックポイントは沢山あります

### (3) 親が付き合っている友人知人を知る

「遠くの親戚よりも近くの他人」と諺にある通りいざと言う時は頼りになるのは近くの他人です。

聞き出して記録し帰省の折には親の親密度に応じて手土産を持ち挨拶をするように心がける。

### (4) 親の住まいの近所の方とは日頃からコミュニケーションがとれるよう心がけ自分、妹の連絡先を知らせておく。

私の場合は、土佐市出身者の親睦団体が関東に41年の歴史があり年一回の親睦会が開催され、ある年部落出身の大先輩が「年賀状を部落全員に欠かさず出している」と聞き自分も翌年から出しよう25年以上になります。日頃から何事もない時から交流をしていると年賀状に親の消息を書いてくれる方も何人かおりありがたいことです。

### (5) 親の育った時代背景を良く知る

故郷を後にするまでの18歳までに聞いていた親の人生と時代背景は成人になり家庭を持ち親の苦労が徐々に解るようになってから聞くのとでは理解の仕方が違います。帰省の団欒の折、意識して聞いておくことをお勧めします。後にケアマネージャーとの相談時に役に立ちます。

### (6) 親の財産、年金、保険類の加入状況と特約内容等を確認する

親が年若い頃は中々言い出せ無い事柄ですが、早いうちから確認し証書等の保管場所も見届けておく。これから発生するであろう介護費用の捻出見通しも腹を割って相談しておく事が先に行っ  
て介護が始まった時あわてずに対処出来るキーポイントになります。この相談結果に基づき場合によっては仕送りの覚悟や、お親の介護を目的とした民間の介護保険への加入、自己貯蓄開始等を決断することになります。

### (7) 郷里の市町村の介護保険制度、包括支援センター（高知市：「介護保険利用の手引き」＜26年5月作成＞地域高齢者支援センター）や民間介護事業者を把握する

介護保険制度は、市町村毎に料金体系等が違いますので郷里の制度を日頃から知ることが大切です。

### (8) 介護保険制度を勉強しておく

郷里から介護保険のガイドを取り寄せ平常時から仕組み、利用手順等を知っておく必要があります。平成23年3月の会報に私の「介護保険の仕組みと活用」について掲載しておりますので活用してください。制度は2年毎に改定されますので必ず最新年度のガイドを取り寄せて下さい。

## 3. 2 親の加齢と共に支援方法を親・兄妹夫婦で協議し実行に移す

### (1) 親の将来に対する気持ちを聞いておく

親が元気なうちに、もし体力の衰えや病気の進行で日常生活が不自由になり何らかの支援が必要になることを想定し腹を割った率直な意思を聞きます。子どもと郷里で同居してもらいたい、ヘルパー等の支援で老々介護を出来るところまで自立していく、施設に入所する、等々話が出来ます。どの方法も長い時間をかけて環境作りや準備が必要になります。ここであえて兄妹夫婦と明記したのはこれから親の意向を踏まえた協議には全員が同じ土俵で情報を共有し建設的に物事を進める上で欠かせないことです。往々にして、親兄妹で決めた事を妻や夫に話したら、協力を得る説得に多大の労力を必要とする結果にもなりかねません。又異議が出るとも限りません。翻って妻の、夫の親を看る話になったことに当てはめると立場が変わります。常に両家の親を看る覚悟で相談ごとを進められるようにされるとよいと思います。

### (2) これからの方向付けを固める

親兄妹夫婦で親の意向を踏まえた方向付けを協議し実現に向けての手順を固めます。兄妹夫婦は仕事や家庭の事情で全員の参加や次の協議日程を決めるのも中々困難を伴います。この為にも早い時期から協議に取り組む事が必要です。

### (3) 日常の親との連絡を密に

「頼りの無いのは元気な証拠」はあてになりません。時々の帰省で感じた親の様子を頭に入れ定期的に連絡を取り合います。兄妹で親に連絡を取る曜日を決めておくのも重複を避け費用を節約する事は、長期戦では必要です。連絡方法の事例として新聞に「毎日絵手回答を通じて安否を確認している。」事が載っていました。

### (4) 介護認定を申請する

日常生活に体が思うように動かず支障の兆しが見え始めたら親と相談し介護認定の申請を郷里の包括支援センター（高知市：地域高齢者支援センター）に申請をします。以下詳しくは平成23年会報の記事を参照下さい。）

### (5) ケアマネージャーの紹介を受けケア

プランを練ってもらい具体的に介護保険制度下での生活サポートを詰める。提供されるメニューは数多くの中から選択することになるので3. 1(8)での事前勉強がケアマネージャー同じ土俵で検討をする上で大いに役に立つます。これまで比較的健康に過ごされてこられての初介護認定は「要支援」が多いと思います。この段階ではリハビリを中心した「介護予防」が支援内容になります。現状より悪くならないように更に良くなるようにするのが目的です。

### (6) 加齢に応じた家の改修

両親の家の中での日常生活において障害となる段差の解消、歩行時の安全を考え手すりの設置、トイレを和式から洋式に、二階住まいから安全を考え一階に生活の場を設ける改造等々を行い老々生活が安全に営めるように工夫をします。改修にかかる費用は介護保険適用で本人負担は一割です。支給限度額は同一住宅につき「20万円」です。改造内容によっては限度額を超えと思いますがケアマネージャーと相談し効率良く活用し超過分の自己負担を極力減らすように工夫しましょう。

### (7) 父母どちらかが入院で一人暮らしが発生した場合

父親が入院した場合は母親が一人住まいになります。母親の自立度に応じてヘルパーを要請する等で比較的对応はし易いと思います。具体的にはケアマネージャーと相談をしましょう。問題は逆に母親の入院で何もかも母親任せで日常生活を送ってきた場合です。父親の自立度によっては緊急施設入所で世話をしてもらおう事になります。ケアマネージャーと良く相談し対処します。父親の一人住まいのあることを想定し早い時期から食事洗濯家事仕事をこなせるよう親兄妹夫婦の話し合いのテーマに入れ父親にその気になってもらい、トレーニングに励むよう応援をする事も重要です。

### (8) 一人住まいの親とのコミュニケーションは一層密に

老々生活時はお互いに注意励まし合って生活が送れている間は心配事はありながらも遠距離住まいの子どもも比較的安心出来ると思いますが、一人住まいの親は些細な事でも相談相手が居なくなり不安が募っていきます。又入院中の親の見舞いと医師との相談等で妹と相談し帰省して現実を良く掌握し進んでケアマネージャーと相談をしましょう。この当たりから遠距離介護が本格化することになります。

### (9) ITを活用した見守りサービスの活用

毎日元気で活動しているか気がかりになります。この場合、24時間見守りサービスをしてくれるシステムがあります。必要に応じ活用されると良いと思います。

- 転倒を検知するとサポートセンターに自動通報・・・フィリップス
- 毎日ガスの使用量を携帯電話で確認・・・NTTテレコムサービス
- 離れて暮らす親は普段通り生活している・・・象印マホウビンサービス
- 高齢の親と離れて暮らす方向けサービス・・・セコムホームセキュリティ

## 3. 3 遠距離介護の費用

遠距離介護は長期戦になります。費用の問題が重くのしかかってきます。

## (1) 費用の分担

3. 1(6)で述べた親の財産、年金、保険金等財力、収入を勘案し介護費用、遠距離介護にかかる交通費、親の生活費等々を総合し期限の無い長期戦に向けて戦略を立てる事が重要です。費用の問題はそれぞれの家庭の事情もありなかなかうまく事が運びません。親兄妹夫婦で納得出来るまで相談を重ねます。

○まずはかかる費用は親の負担で進められるか確認。

3. 1(6)で相談をした介護費用捻出計画を基に現実に即した検討を行い負担の可能性、程度をはっきりさせます。

○介護保険制度には「サービス利用者負担の軽減」措置があります。ケアマネージャー相談をし適用出来る場合は活用します。

○親だけの財力収入では賄え無い場合には子どもの応援となります。遠距離にかかる交通費負担も割引制度を活用し負担を軽減しましょう。

・航空会社では介護割引制度があります

・夜行バスの利用も航空機に比べれば大幅に安く利用出来ます。

私は横浜・高知の往復に活用しております。後発の「コトバス」は通常料金でも9000円台まで、しかも様々な割引があります。5・10の日は半額で利用出来ます。長期戦に備えインターネットで探してみましょう。

・兄妹で連携し途切れ無い、効率の良い遠距離介護を心がけましょう。

## 3. 4 遠距離介護と仕事の両立

遠距離介護を一人で抱え込んで離職をして郷里にかえり介護に努める事は家庭の事情や経済的な事情が許されれば可能かもしれませんがお勧めできません。介護は期限の無い長期戦です。先ず仕事と両立させる方法を兄妹の立場で模索し、現状の家庭の営みを維持します。

### (1) 「育児介護休業法」の活用

2005年に施行された制度です。最大93日の休みが取れる仕組みです。会社毎に労使の協議で内容を取り決めています。自分の勤め先にこの制度があるかを確認めあれば積極的に活用しましょう。

### (2) チームを組んで対処

兄の妻、妹の夫共協力を得て(1)の制度を倍に増やして活用し、一人一人の負担軽減に努めましょう。

### (3) 遊びも出来る余裕を

何度も繰り返しになりますが介護は期限のない長期戦です。犠牲的精神を捨て親も子も笑顔で対応できるように努めます。家庭サービス、遊びも出来るだけこれまで通り続けられるよう工夫していき来ましょう。

## 3. 5 家族の協力

何と言っても家族の協力なしに介護、遠距離介護は務まりません。3. 2項で記述したように後戻りの無い介護、遠距離介護を実行するためには親・兄妹夫婦が参加した相談が最重要です。同じ土俵に上がるまで時間がかかっても全員参加に努めスタートすることが肝要です。結果として停滞、後戻りの無い行動につながります。親と子の笑顔が最大の励みです。

## 4. あとがき

今回は極めて限定された条件での遠距離介護について解説させていただきました。一人っ子の場合は更に負担が大きくなります。兄弟姉妹が多ければ負担が軽くなる期待がありますが、意見を集約してケアマネージャーと相談に臨むまでには長い時間を必要とすることになります。

本解説を基本にそれぞれの環境や条件を勘案し実行されれば幸いです。

私の場合、56歳の時父が他界し、それ以後母が一人暮らしで頑張ってくれました。父の法事時期と正月に帰省し様子を確認する程度で済みました。近所の方には大変お世話になりました。60歳定年後即帰郷し、高知市針木の平成福祉専門学校に入学、介護福祉士の資格取得を目指し2年勉学に努めました。母は持病で入院しており私が定年を迎え帰郷してきた事に安心したのか、一人暮らしの疲れが急速に認知症になり、勉学中は弟妹と連携し介護に努めました。卒業後横浜市内の福祉施設に就職のため母は妹夫妻の家に同居の予定でした。残念ながら卒業2か月前に入院3月末には退院の予定でしたが長引き7月に他界しました。母と同居し介護のまねごとが出来たことはありがたい機会をいただいたと思っております。その後私は横浜市内の福祉施設で70歳第二の定年を迎え3か月バッテリー充電の後、平成24年6月単身赴任で帰郷し土佐市内の福祉施設で介護のお役をいただき3年目に入りました。しばらく役割がいただけそうですので頑張っています。

次回もし再度寄稿の機会がいただけるようでしたら、3. 2(5)で紹介した「介護予防」について記述させていただき私の介護シリーズの寄稿を締めくくりにしたいと思います。貴重な誌面をありがとうございました。

## 5. 参考資料

### 遠距離介護解説本

- 「故郷の親が老いたとき」・・・中央法規
- 「離れて暮らす親を介護する方法」・・・三修社
- 「遠距離介護、行動の三つの柱」・・・離れて暮らす親のケアを考える会パオッコ

### インターネットの活用

- 「パオッコ」・・・検索
- 沢山の事例が登録されていますので「遠距離介護」・・・検索して下さい

### 格安夜行バス

- 「コトバス」・・・検索

# 平成26年春の同窓会報告

武内 保（昭和36年電気科卒）

すっかり本誌でもお馴染みとなってしまいました、昭和36年電気科卒の関東地区での同窓会報告です。開催場所は埼玉県秩父市の大滝です。とても静寂な山奥にある山荘です。ここに毎年12～5名の男たちが集まりにぎやかな同窓会を毎年開いております。

今年は、高知から同窓会副会長の森本征彦さんに初めて参加していただきました。

同窓会は（平成26年）5月26日～28日の3日間です。初日はゴルフ組が秩父市郊外のゴルフ場に集合し、プレーを楽しんだ後大滝山荘に集合します。

2日目はゴルフ以外のメンバーがあちこちから集まってきます。買い物ついでに電車で来る人を秩父駅に迎えに行きます。そこには車に同乗してくる仲間も集結します。そろって山荘に向かいます。昼食は家主とゴルフ組の残留者で用意します。

昼食ののち、総指揮官（家主の田村保さん）の采配で炊事当番やバーベキュー用のテント張りや火おこし当番などに分かれて、夜の「おきゃく」の準備が淡々と進められます。

献立もそれはそれはにぎやかです。メインはやはりこの時期の一番人気「かつおのタタキ」です。これは高知から（森本さん）の差し入れです。それに高知の別所さんから送られてきた「鴨とキジ、そして四万十の手長エビ」を料理していただきました。

お酒や焼酎もそれぞれの持込みのほかに欠席のお詫びにと送られてくる品など、これらも沢山あります。酒は酒でも一番の飲み物は家主が各地から釣り上げてきたイワナのひれ酒です。これを大きな鉢で回し飲みします。とても香りが良く味の濃いお酒をたんといいただくわけです。

3日目は朝からカレーを作っていただきました。

そんなこんなで、楽しんだ後いよいよ山荘前での集合写真となるわけですが、これもまたひと騒動なのです。集合場所の確保・片付けなどと、年に一度か2度のセルフタイマーのセッティングでいつもドタバタしています。何とかまとまったのがこの写真です。

何はともあれ、この3日間は気も心もあの紅顔可憐な若者たちの集いなのです。また来年の再会を約束し、沢山の思い出を胸に秘め足取りも軽く三々五々と帰ってゆきました。



# 支部だより

## 東京支部（桂工会）

支部長 谷岡 健吉（昭和41年電気科卒）

平成26年10月末時点での東京支部（桂工会）の活動状況、年度内計画等についてご報告いたします。

5月4日には本部同窓会総会（ザ クラウンパレス新阪急高知）に出席しました。定例の支部役員会は6月13日に開催し、会員の高齢化、若手卒業生の母校への帰属意識の薄れなどによって総会出席者が減少している状況での総会、懇親会のあり方や経費節減策などについての議論を行いました。

10月4日に芝弥生会館で開催した総会には、来賓として母校より、土木科の中村文香先生、本部同窓会からは包國勝会長、森本征彦副会長が遠路ご出席くださいました。また、高知県東京事務所からは杉本明所長に来賓としてお越しいただきました。今年は当日の特別講演会に代えて母校100周年記念制作の「工業ハ富国ノ基」のビデオ鑑賞会を開催しました。

KKゴルフ会については、10月16日に東松山カントリークラブでコンペを開催しました。

高知県人会関係では11月14日の関東高知県人大懇親会に桂工会として出席します。

この後の予定としては、平成27年2月の本部同窓会入会式への出席、また3月に副会長以上による役員会を開催して26年度の東京支部の活動をすべて終えることとなります。



## 静岡支部（静桂会）

支部長 小川 純一（昭和37年機械科卒）

静岡県の特徴は東西に長く、古くは西から遠江の国・駿河の国・伊豆の国とそれぞれの土地柄にかなり特徴があります。また東西の交通の通過地域でもあります。近年は地域の有力企業が生産拠点を海外に拡大・移転したり、東日本大震災以降は東南海地震や富士山の噴火を想定して県外へ工場を分散するなど県内の人口減少が少しずつ進行しています。

静岡支部（静桂会）は平成13年に発足しました。転勤や進学で来られた方や退職後に熱海・伊豆方面、御殿場・裾野など富士山周辺に転居された方などが同窓会の主なメンバーです。70才を超えて益々お元気な方が多くなってきましたが、今年も支部活動に尽力してまいりますので、ご支援の程宜しくお願い申し上げます。

### 平成25年度活動報告

●11月17日

静岡支部[静桂会]総会開催（静岡市クーポール会館）  
包國同窓会会長も参加して頂き、賑やかな総会となりました。

●1月下旬

「卒業生に贈る言葉」寄稿（中村 悦喜氏）

●3月22日～25日

第32回全国高等学校男子ソフトボール選抜大会応援（富士宮市）  
ご父兄関係者、包國同窓会会長と共に、  
最終日まで母校を応援しました。

### 平成26年度活動報告

●2月19日

「同窓会入会式」と「保護者及び支部役員との懇談会」に小川会長出席

### 平成26年度活動予定

●11月16日

静岡支部〔静桂会〕総会開催（静岡市クーポール会館）





## 東海支部（南風会）

支部長 松村 司郎（昭和36年電気科卒）

東海地方は物作りの盛んなところであることは今更申し上げることはありません。

当地は「物」だけでなく「者」の生産、つまり人作りにも力をいれており、名古屋大学が輩出するノーベル賞受賞者は国内で突出しています。

私が勤務していました中部電力の教育センターの名称が「人材開発センター」であることから、当地は「物」と「者」生産圏であると自負しています。

今年もこの地方へ沢山の新卒者が就職、就学のために移り住み始めました。私ども同窓会東海支部は無限の将来性を持つ青年達を陰ながら支えていく所存です。

### 平成26年度活動状況

- 6月28日 小松工業高校中京支部総会 中日パレスにて  
松村司郎、竹島朗、森沢龍夫、松本幸平、金田耕喜
- 5月31日 第12回 K&K会（高知工業・小松工業合同ゴルフコンペ） 藤原ゴルフクラブにて  
種田充紘、金田耕喜
- 7月12日 東海支部（南風会）総会の開催 KABTO名駅店にて  
新卒者4名、同窓会本部3名、小松工業高校同窓会中京支部4名 総勢44名

### 平成26年度活動計画

12月 第13回 K&K会ゴルフコンペ

## 大阪支部（鯨工会）

支部長 堀田 秀雄（昭和43年土木科卒業）

### 平成26年度活動状況（平成26年4月～平成27年3月）

- 5月4日 本部総会 堀田支部長、大崎副会長出席
- 6月21日 鯨工会総会開催（ホテルメトロ the 21）
- 8月2日 役員会開催
- 10月19日 高知県人会近畿連合会主催 ふるさと土佐交流会 木下副会長出席
- 10月24日 役員会開催
- 11月8日 H26年度 小松工業高等学校同窓会関西支部出席予定 堀田会長、大崎副会長
- H27年1月 拡大役員会開催予定
- H27年3月 役員会開催予定
- H27年3月 鯨工会・第37回ゴルフコンペ開催予定

## 室戸支部（室戸鯨工会）

支部長 山本 聡（昭和54年土木科卒）

### 室戸鯨工会の活動計画について

1. 26年度、高知工業高等学校卒業生の会員募集を呼びかける。
2. 年間1回の総会を実施し、OB会の親睦を図るとともに、高知工業高等学校OB会本部による活動方針及び年間日程等の周知を図る。【12月末日予定】
3. 室戸鯨工会による各自のボランティア活動の実施
  - ・地域の清掃活動への参加
  - ・室戸ジオパーク活動への参加
  - ・地域行事等への参加（地域の相撲大会の環境整備・地域の小中学校の環境整備）

以上の活動を通して、高知工業高等学校で学んだ知識や技術を生かし、地域の貢献できる活動をしていく。

## 安芸支部（芸工会）

事務局長 黒岩 良行（昭和40年電気科卒業）

9月13日包国会長、田頭副校長、澤事務局長のご出席の元、今年も賑やかに支部総会を開催しました。総会では、人生の歩みと共に培った蘊蓄を語って頂く時間を設ける事としていますが、今回は「萩野昭雄さん（昭和31年工業化学卒）の蘊蓄」と題し、終戦間近に満州へ渡られ、生死の体験をされたお話を伺いましたので、あらましを紹介します。

### ～ 満州国での出来事 ～

1. 満州国について
  - ・中国の東北部の遼寧省、吉林省、黒龍江省の3省を満州といい、昭和6年の柳条湖事件をきっかけに満州事変が始まる。
  - ・日本軍は満州の主要地域を占領し、昭和7年清朝最後の皇帝「溥儀」を執政にむかえ、傀儡国家の満州国が建国された。
2. 満州国の開拓
  - ・満州国の維持、軍事目的、国内の農村窮乏の緩和を目的として、昭和7年、第一次開拓団が編成された。その後14次迄続き、総数32万人が入植。終戦間近ソ連の参戦によって、開拓団は壊滅し、8万人余りが犠牲となる。
3. 大土佐開拓団の入植
  - ・昭和19年3月10日、高知県移民編成計画により県内十ヶ町村から、先遣隊が順次入植し、合して1,682名が入植す



る。萩野氏は、20年3月小学2年の終わりに入植する。

#### 4. 現地での生活

- ・入植地は、吉林省九台县飲馬河の流域で、高粱、トウモロコシ、おかぼ（陸稻）、大豆等豆類を栽培。
- ・住宅は、土の煉瓦を積み上げて作り、外の覆いや屋根に高粱の殻を使用。木材は使わず暖房は、床下に煙道（オンドル）を作って暖を取る。高粱の皮で編んだアンペラという敷物を、土の床に敷いて生活する。
- ・ガス、水道、電気無し。水は、跳ね上げ釣瓶で井戸水を汲み上げる。水質悪く、井戸水は飲めない。沸かしたものを冷まして飲用とする。
- ・6月末より雨季となり、7月飲馬河が氾濫。生育した作物は全滅。交通は途絶し、急遽木材を挽き割り、箱舟を作って畑地の上を往来する。

#### 5. 敗戦後の苦難

- ・8月9日夜、突如ソ連軍による吉林市内への空爆があり、10日夜は、新京市（現在の長春）が空襲されソ連軍と交戦状態に入ったとの情報。続いて8月18日には、日本は無条件降伏をしたと本部より伝えられた。しかし、洪水による交通途絶のため、本部よりの連絡は、正確に伝わらず、デマ、うわさが飛び交った。
- ・日本の支配下に置かれ、苦惨をなめた満州人による匪賊や暴民の蜂起・略奪が始まる。8月16日「安芸、川北、井ノ口」開拓団が襲われ、牛馬、農機具、家財道具、食糧、被服全部を掠奪され避難を始める。

#### 6. 萩野氏（当時小学3年）が経験した忘れる事のできない逃避行

- ・飲馬河氾濫の影響で、道と言わず畑と言わずいまだに泥濘深い中を、行先も定まらない中避難する。団員一同、昼夜を分かたず集合・移動を繰り返しながら、落ち着くところを探しながらの避難生活を続ける。
- ・避難中も絶えず満州人による、襲撃・略奪に逢い、それにソ連兵が加わって襲撃を受ける。団員達は、蜘蛛の子を散らすように逃げ、萩野氏は、沼地へ逃げ込んだ。沼地では底に足がつかなく、立ち泳ぎのような格好で首だけ出して中ほどまで逃げ、浮かんでいると、ソ連兵が自動小銃を構え、筒先をこちらに向けた。水面に弾丸の着水による水柱が立った事で、狙撃を受けたことが分かった。幸い当たることはなかったが、その時の気持ちは、恐怖という言葉で言い表すことのできない、表現のしようのない出来事であり、今でも絵に描くようにハッキリ頭に残っている。

#### 7. 新京での避難生活

- ・9月の終り頃、苦難の末新京市「宮下官舎」に落ち着く。新京では、ソ連軍の監視下に置かれ、ソ連兵（囚人兵と思われる）による、金銭等の強奪、強制連行・使役が後を絶たない。便所汲み取り、水汲み、子守、ペーチャカ焚き、石炭拾い、菓子パンの販売など何でもやって日銭を稼ぎ、生活を凌ぐ。
- ・昭和21年3月10日ソ連兵は撤退したが、中央軍（蒋介石）と八路軍（中共軍共産党）の内乱が繰り返され、弾丸が風を切る音の中、戦々恐々として過ごす。

#### 8. 日本への引き上げ

- ・昭和21年7月15日内地帰還が決まり、屋根のない貨車（無蓋車）に鮎詰め乗車して、新京駅を出発する。途中、10日間位停車する事があり、畑に行つてトウモロコシや高粱の殻、落ちていた豆を拾って飢えを凌いだ。
- ・新京→葫蘆島→長崎（佐世保）のルートで家族全員帰還できた。すぐには、下船できず検疫待機の後上陸、予防注射を受ける。井ノ口村からは、203名が入植したが、帰還者は不明。

#### 9. おわりに

- ・ソ連は、不可侵条約を結んでいたにも関わらず、終戦の6日前、8月9日に対日宣戦を布告し、満州に侵入。戦利品として畳まで剥いでトラック・貨車で運んだ。たった1週間で戦勝国となり略奪の繰り返し、シベリアへの50万人連行、北方4島の占領など、今でもソ連を許すことが出来ない思いが強い。
- ・満州国の体験者が段々減っていく中、後世に伝えなければとの思いもあり、封印していた体験の一部を語らせてもらった。その思いを理解してほしい。

## 嶺北支部（吉野川会）

支部長 西村 行雄（昭和37年土木科卒）

きびしかった暑さも峠を越え、朝晩は肌寒くなりました。

同窓生の皆様方におかれましては、益々ご健勝の事とお喜び申し上げます。

本年は、8月の台風で大雨となり又当地域は毎日のように雨が降り続けました。

日頃から、災害への関心を高めておかなければいけないと思わされた大雨でした。

一昨年から取り組んでいる奉仕活動の公園の清掃活動を、これからも続けていきたいと考えております。

わが同窓会では、より多くの同窓生に参加してもらえよう、頑張っていきたいと考えております。

当地区の卒業生のご協力をよろしくお願いいたします。

### 平成26年度活動報告及び予定

5月4日 本部同窓会出席

9月24日 嶺北支部役員会開催

11月 公園清掃作業予定

嶺北支部総会開催予定



公園の清掃活動

## 幡多支部（波多愛校会）

支部長 福田 充（昭和44年建築科卒）

同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝の事とお喜び申し上げます。

去る6月4日に四万十市におきまして 本部包国会長、他

澤俊雄事務局長始め本部より5名の参加者をお招きして総勢29名の参加で無事支部総会を終わらせることができました。

酒を酌み交わしながら 母校の思い出に花を咲かせたひと時でした。

幡多の地にも高規格道路の延伸が決まり、四万十町から黒潮町佐賀まで急ピッチで工事が進んでおります

幡多博を今回行い幡多の地の良い所をアピールできたのではないかと考えます。

幡多支部もこれから益々本部との連絡を取りながら同窓生を中心に地域を活性化したいと考えています。

終わりになりますが 皆様のご健勝と益々のご活躍を心よりお祈りいたします。





# 平成27年度 開校記念ゴルフ大会開催のお知らせ

ゴルフ部会幹事 大窪 和男（昭和48年電気科卒）

ゴルフ愛好家の皆様、平成26年度開校記念ゴルフには、たくさんの参加をいただきありがとうございました。

当日は天気にも恵まれ、参加者皆様の日頃の鍛錬の成果が十分に出せ、満足の行く結果が出たのではないかと思います。

さて、平成27年度は同窓会総会が4月29日の開催になりましたので、例年の日程を変更し、4月28日に開催いたします。

平日開催になりますが、是非多くの皆様の参加をお待ちしております。

また、ご意見、ご希望等ありましたら連絡いただければ幸いです。

## 申込責任者の皆様

申込責任者の皆様、平成26年度開校記念ゴルフたくさんの参加をいただきありがとうございました。当日は天気にも恵まれ、参加者皆様の日頃の鍛錬の成果が十分に出せ、満足の行く結果が出たのではないかと思います。

遅くなりましたが、成績表送付いたします。

○印の方は入賞されていますので、賞品を同窓会事務局に取りに来ていただけるようご案内よろしくお願いたします。

今後ともご協力よろしくお願いたします。

## 高知県立高知工業高等学校 平成27年開校記念ゴルフ大会のご案内・申込書

主催 高知工業高等学校同窓会ゴルフ部会

記

平成27年度開校記念ゴルフ大会を下記の要領で開催することになりました。

ゴルフ愛好家の皆様の多数の参加をお待ちしております。

1. 日 時 平成27年4月28日(火)  
集合7時30分 スタート8時00分の予定（若干の時間の変更はあります）
2. 場 所 土佐カントリークラブ 香南市夜須町手結668 (TEL)0887-55-2131
3. 参加資格 同窓生 教職員 ご家族の方
4. 競技方法 18ホール ストロークプレイ HC ダブルペリア方式
5. 参加料 2,000円（プレー費は自己負担とする）
6. 入 賞 優勝～第10位・飛賞（10位以降）・ベストグロス賞・BB賞・ホテル賞・参加賞
7. 参加申込み・お問い合わせ  
申込み・問い合わせ先 高知工業高等学校同窓会本部  
住 所 高知市棧橋通り2丁目11-6  
TEL・FAX 088-831-4133
8. 申し込み締め切り 4月10日をめぐに締め切りますのでお早めに申し込みください。

※ 出来るだけ1組単位での申し込みお願いたします。

申し込みは郵送・FAX・電話で受付いたします、必要事項のご記入、ご連絡よろしくお願申し上げます。又、組合せ表は決定後、代表者に郵送させていただきます。

# 『工業ハ富国ノ基』読書感想文表彰

新入生には高校生活への展望を踏まえた、『工業ハ富国ノ基』の読書感想文を書いてもらっています。優秀作品は、7月18日の1学期終業式場で表彰を行いました。本年度の入賞した生徒さんは次の通りです。

- |       |               |                 |  |
|-------|---------------|-----------------|--|
| ● 最優秀 | 〇〇 〇〇 (土木科)   |                 |  |
| ● 優 秀 | 〇〇 〇〇 (機械科)   | 〇〇 〇〇 (電気科)     |  |
|       | 〇〇 〇〇 (情報技術科) | 〇〇 〇〇 (工業化学科)   |  |
|       | 〇〇 〇〇 (建築科)   | 〇〇 〇〇 (総合デザイン科) |  |

最優秀

## 高知工業高校に入学して

土木科 〇〇 〇〇

私は今春、高知工業高校の土木科に入学しました。高知工業高校には、7つの科があります。その中で何故私が土木科を選んだのかと言うと、高知県の交通事情に関係があります。

高知県は東西に長く伸びた地形にあり、電車やバスを乗り継いでも目的地に着く為にはとても時間を要してしまいます。その為に県民の多くは自動車での移動が不可欠になっています。しかし、このような状況にありながら、高知県の道路事情は他県に比べて決して良いものとは言えません。例えば、私は通学に自転車を使用していますが、昨年からは自転車も軽車両と見なされ車道を通行しなければならなくなっています。しかし、高知県の車道は自動車が通行していれば自転車で走行出来る様な幅のある道路は少なく、自動車側からしても、自転車側からしても、とても危険に思います。

また、舗装面からしてもでこぼこだったり、割れ目が出来ていたりする所がいたる所にあります。私はこのような事が改善され住み良い高知県になる為には、どうすれば良いか、どのような知識や技術を身に付ければ良いのかと言うことに関心を持ちました。その事を勉強し、将来、社会に役立つ人間になりたいと思い、高知工業高校の土木科に入学しました。

そして、合格者登校日に手渡された、高知工

業高校の創立者である竹内綱先生と明太郎先生の伝記「工業ハ富国ノ基」を読んで、更に初心を忘れずに社会の為、また高知県の発展の為に尽力したいと思いました。

この伝記を読んで、高知工業高校を創って下さった竹内綱先生とその長男である明太郎先生に常に感謝の気持ちを持ち、高知工業高校で学べる事に喜びを感じながら、日々努力をしていきたいと思いました。

また、明太郎先生が卒業生に贈った言葉の中に、就職について語った一文があります。『なるべく困難な方面を選んで苦痛な仕事にあたるように、苦痛を感じずるにしてもその半面、前途の希望によって必ず愉快を伴うものであるから、心身の鍛錬ができます。』

明太郎先生は、机の上だけの勉強だけではなく、自ら率先して学び身を尽くして技術を磨きなさい、そうする事で世の中において役に立てる人間になれる、と言っているのだと思います。私も竹内綱先生、明太郎先生の意志を受け継がれている、この高知工業高校で過ごす三年間を悔いの残ることのないように何事にも一生懸命に取り組み、三年後には高知工業高校に入学して良かったと思えるようにしたいと強く思いました。

# 母校だより

## 本校生徒の就職状況について

進路指導部 藤岡 常幸

本校同窓生の皆様には日頃より大変お世話になっております。進路指導部より本年度の就職状況を途中経過ですが報告させていただきます。

本年度は148名の生徒が就職を希望しており、11/13日現在127名が民間企業から内定をいただいております。また、公務員につきましてはこれまでに7名の生徒が合格しており、今後の結果が期待されます。

次に求人数ですが、今年は県内外ともに求人依頼は増加しております。特に県外企業からの求人依頼が数多くありましたが、これまで本校との縁がなかったサービス業であったり、建設業関連といった業種が大幅に増加したことにより。ただし、生徒は同窓生とのつながりを重要視しており、これまで実績のある製造業を中心に受験先を決定する傾向は続いております。結果、各企業でご活躍されている諸先輩方のお力添えや、また本校に対する期待度の現れもあり、昨年に続き高い率で内定をいただくことができました。

### ①求人数の推移(過去5年間) ※平成26年11月13日現在

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
求人総数[社]	441	371	389	410	524
県内求人数[社]	82	104	111	113	132
県外求人数[社]	359	267	278	297	392

生徒の就職先地域については以下のとおりです。今年の特徴としましては、ここ数年増加していた県内企業への就職者数より県外就職者の数が上回ったことです。特に関東地区を希望する生徒が増えたことがあげられます。東北震災以後大幅に減少していた希望数が今年は復活、今後もこの傾向が続けば関東地区での同窓生として活躍が期待されます。

愛知県や大阪府・兵庫県などは例年就職希望が多く、この地区では毎年相当数の卒業生が各

企業で勤務していることとなります。企業での活躍や同窓会各支部活動の活性化が期待される所です。

さて、今年7月に東海支部の総会に参加させていただきました。多くの同窓生が出席している中で卒業して間もない若手の参加者が目につきました。高知から遠く離れた地で彼らのがんばりを聞き、あらためて適切な進路指導を目指そうと決意を新たにいたしました。

最後に、本年度内定をいただきました企業名を地区別に記載させていただきます。各地区で4月よりお世話になります生徒の一覧です。よろしくご指導の程お願いいたします。

### ②就職者の地域分類(過去5年間) ※平成26年11月13日現在

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
関東地区[人]	9	7	8	7	14
中部地区[人]	19	20	16	19	21
関西地区[人]	20	21	14	20	20
中国地区[人]	6	4	2	3	3
四国地区[人]	7	15	13	10	16
その他[人]	1	1	0	0	1
高知県内[人]	48(44%)	71(51%)	63(54%)	70(54%)	61(45%)
総計[人]	110	139	116	129	136



地区		事業所名	科
関東	東京都	小田急電鉄(株)	ト
		(株)沖電気カスタマアドテック	シ
		東京水道サービス(株)	ト・ト
		大林道路(株)	ト
		日本道路(株)	ト
		川田建設(株)	ト
		東京モノレール(株)	ト
	神奈川県	日本発条(株)	テ
		アイダエンジニアリング(株)	テ
		JFEスチール(株)東日本製鉄所	キ
	栃木県	(株)本田技術研究所 四輪R&Dセンター	ソ
	千葉県	JFE物流(株) 東日本事業所	キ
		東洋佐々木ガラス株式会社千葉工場	カ
	中部	愛知県	(株)ジェイテクト 学園生
アイシン・エイ・ダブリュ(株)			キ・テ
オークマ(株)			キ
トヨタ自動車(株) 専門部生			キ
(株)デンソー 高専生			キ・テ
愛知製鋼(株) 技術学園生			キ
大同特殊鋼(株) 技術学園生			キ
(株)豊田自動織機 技能専修学園生			キ
新日鐵住金(株)名古屋製鉄所			キ
日本特殊陶業(株)小牧工場			キ・シ
(株)東海理化電機製作所 学園生			テ
アイシン精機(株) 高等学園			テ
中部電力(株)			テ
トヨタ紡織(株) 学園生			テ
トヨタ自動車(株)		テ	
黒金化成(株)知立工場		カ	
(株)ノリタケTCF		カ	
三重県		本田技研工業(株)鈴鹿製作所	キ
関西		大阪府	ダイハツ工業(株)
	内外電機(株)		キ
	(株)かんでんエンジニアリング		テ
	協和テクノロジーズ(株)		シ
	(株)カネカ		カ
	五洋紙工(株)		カ・カ
	(株)日商機械		カ
	岩田地崎建設(株)		ト
	大成化工(株)	ソ	
	兵庫県	(株)神戸製鋼所 加古川製鉄所	キ
		川崎重工業(株)	キ・キ
		新日鐵住金(株)鋼管事業部 尼崎製造所	キ
		富士電機(株)神戸工場	テ
	川崎重工業(株)明石工場	テ	
滋賀県	(株)山崎機械製作所	キ	
奈良県	(株)瀧川寺社建築	ケ	
和歌山県	新日鐵住金(株)和歌山製鉄所	カ	
	花王(株)和歌山工場	カ	
中国・四国	岡山県	JFEスチール(株)西日本製鉄所	キ
(株)高田工業所	カ		

地区		事業所名	科
中国・四国	岡山県	岡山県土地改良事業団体連合会	ト
		四電エンジニアリング(株)	キ・テ
	香川県	(財)四国電気保安協会	テ
		協和化学工業(株)坂出工場	カ
		今治造船(株)丸亀事業本部	カ
		丸一鋼管(株)詫間工場	カ
		三菱マテリアル(株)直島精錬所	カ
		コマツ建機販売(株)四国カンパニー	カ
		西日本高速道路エンジニアリング四国(株)	ト
		(株)建設マネジメント四国	ト
	積和建設四国(株)	ケ	
	愛媛県	四国通建(株)	テ・テ・シ
	ダイオーミルサポート(株)	ソ	
	徳島県	(株)大塚製菓工場	カ
高知県	ツカサ重機(株)	キ・テ	
	(株)泉井鐵工所	キ	
	(株)ミロク製作所	キ・テ	
	(株)垣内	キ	
	(株)太陽	キ	
	(株)特殊製鋼所	キ・キ	
	兼松エンジニアリング(株)	キ・シ	
	(株)SKK	キ・テ	
	ネットトヨタ南国(株)	キ・キ	
	住友大阪セメント(株)高知工場	キ・キ・シ	
	(株)四電工高知支店	キ・テ・テ	
	ヤンマー農機製造(株)高知工場	キ	
	(株)小谷穀粉	キ	
	四国電力(株)高知支店	テ	
	山崎技研(株)	テ	
	(株)技研製作所	シ・ト・ソ	
	(株)フタガミ	シ・カ	
	東洋電化工業(株)	カ・カ	
	(株)東洋電化テクノリサーチ	カ	
	(株)トミナガ	カ	
	明星産商(株)	カ	
	南国ミロク(株)	カ	
	大旺新洋(株)	ト・ケ・ケ・ケ	
	(株)轟組	ト・ケ・ケ	
	(社)四国クリエイティブ協会	ト	
	(株)第一コンサルタンツ	ト	
	四国建設コンサルタント(株)	ト	
	関西土木(株)	ト	
	入交建設(株)	ト・ト	
	高知市役所 初級土木	ト・ト・ト・ト	
(株)平山	ケ		
(株)酒井建設	ケ		
高知市消防職員	ケ		
菊屋(株)	ソ		
明星産商(株)	ソ・ソ		
自衛隊一般曹候補生	ソ		



## 最近の進学状況について

進学指導部 安芸 暢英

昨年度の具体的な進学状況は、大学53名（国公立23名〔高知工科大学20名〕、私立大学30名）、専門各種学校62名、短大・ポリテク等が17名でした。（別表「平成25年度卒業生科別進学者数」を参照下さい。）国公立大学の合格者数は昨年より6名減少しましたが、高知工科大学は高知県内高校枠を削減した中で、前年度の18名から、20名へと数を伸ばし健闘してくれました。

このように昨年の進学実績も踏まえ、本校の最近の進学についてみると、例年のことですが卒業生の約半数が進学し、その約半数の60人前後が四年制大学へ進学している傾向があります。その中でも国公立大学への進学者数は30人前後と全国の他の工業高校に比べ多く、高い進学率になっています。中でも、地元の工業系大学である高知工科大学への進学者が多くを占めています。この結果は、高知県内高校枠を使用した推薦入試によるものです。また、他の国公立大学への進学は、専門高校枠の推薦入試を多く使用することで実績を挙げています。

この状況の下、高知工科大学は昨年は高知県内高校枠を削減し、今年（平成27年度入試）の入試より選抜方法を変更します。このことが本校の高知工科大学を志望する生徒たちにどのような影響をもたらすのか、非常に危機感を持って生徒の指導にあたっている現状です。

また、全国的な流れとして、大学入試改革を議論している中央教育審議会は平成26年10月24日大学入試の選抜方法の改革を促す答申案をまとめ、年内にも答申されるということです。大学入試センター試験の後継となる「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」では、「思考力・判断力・表現力」を評価するために複数教科を合わせた問題や記述問題を導入し、各大学には試験結果の活用を勧め、平成32年度から「複数回」の実施を検討しています。そして、高校生の就職活動などにも使える新テストは「高校基礎学力テスト（仮称）」とし、平成31

年度から始め、高校2・3年で複数回受験でき、結果は大学受験の資料としても使用できるとしています。

大学入試センター試験の後などに実施される大学個別の試験は、学習意欲や能力を見る入試に改め、学力を測る場合は、選択式だけではなく、「記述式・論述式」にするとしています。これらの答申案の内容が実現すれば、大学入試はテストの内容だけではなく、入試のシステムそのものが変わることになります。

また、県内に目を向けると、高知短期大学が募集停止になり、高知県立大学の文化学科に夜間主コースができ、そして、高知大学に地域協働学部が新設され、高知工科大学ではマネジメント学部がマネジメント学群に変わるなど、制度・定数など大きな変化が現れています。

このように大学も大学入試制度も変わろうとしているなか、高度な知識や資格を求めて大学へ進学していく生徒たちの進路を保証するためにも、この変化に乗り遅れないよう情報収集や研究を積極的に行っていきますので、同窓生の皆様におかれましても、ご助言等ございましたらよろしくお願いいたします。

最後になりますが、同窓会の今後ますますのご発展と、同窓会各位のご活躍をご祈念申し上げます。

平成25年度卒業生科別進学者数

	機械	電気	情報技術	工業化学	土木	建築	総合	計
国公立大学	4	3	10	2		4		23
私立大学		1	8	7	3	6	5	30
公立短大	1					1		2
私立短大	1			1		1	5	8
高専								0
ポリテク・他	2		3	3				8
職業訓練校					1			1
専門学校	7	4	9	5	12	8	17	62
各種学校								2
計	15	8	30	18	16	20	27	134

# 部活動の成績

## ◇全国大会出場

### ソフトボール部

- ・第32回全国高等学校男子ソフトボール選抜大会  
平成26年3月22日～25日  
静岡県富士宮市  
全国第三位

### 弓道部

- ・第59回全国高等学校弓道大会  
8月7日・8日  
東京武道館

### 少林寺拳法部

- ・第41回全国高等学校少林寺拳法大会  
平成26年8月8日～10日  
千葉県

### 陸上競技部

- ・平成26年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会 秩父宮杯 第67回全国高等学校陸上競技対校選手権大会  
平成26年7月30日～8月3日  
山梨中銀スタジアム

### 囲碁・将棋部

- ・第50回全国高校将棋選手権  
(第38回全国高等学校総合文化祭 将棋部門)  
平成26年7月27日、28日  
茨城県水戸市

## ◇四国大会出場

### 男子バレーボール部

- ・四国高等学校バレーボール選手権大会  
平成26年6月13日～15日  
香川県高松市高松市総合体育館

### バスケットボール部

- ・第67回四国高等学校バスケットボール選手権大会  
平成26年6月14日、15日  
徳島県

### 相撲部

- ・第61回四国高等学校相撲選手権大会  
平成26年6月15日  
香川県営相撲場  
体重別個人80kg未満級 第三位
- ・全日本ジュニア体重別選手権大会四国予選  
平成26年6月15日  
香川県営相撲場

### 柔道部

- ・第63回四国高等学校柔道選手権大会  
平成26年6月14日・15日  
愛媛県四国中央市伊予三島運動公園体育館  
男子個人100kg級 第三位

### 少林寺拳法部

- ・第9回四国高等学校少林寺拳法選手権大会  
平成26年6月14日～15日

### 弓道部

- ・第55回四国高等学校弓道選手権大会  
平成26年6月14日・15日  
高知県立弓道場

### 陸上部

- ・第67回四国高等学校陸上競技対校選手権大会  
平成26年6月14日～16日  
香川県立丸亀競技場

### 自転車競技部

- ・第46回四国高校自転車競技選手権大会  
平成26年6月14日・15日  
瀬戸風バンク（愛媛県松山市）

### ソフトボール部

- ・第58回四国高等学校ソフトボール選手権大会  
(四国大会)  
平成26年6月14日・15日  
春野運動公園  
第一位

### テニス部

- ・四国大会  
6月14・15日  
徳島県

### 水泳部

- ・第65回四国高等学校選手権  
平成26年7月19～20日  
アクアパレットまつやま

### 陸上競技部

- ・第67回四国高等学校陸上競技対校選手権大会  
平成26年6月14日～16日  
香川県立丸亀競技場
- ・第16回四国高等学校新人陸上競技選手権大会  
平成26年10月25～26日  
徳島県鳴門総合運動公園（鳴門・大塚スポーツパーク）

# 本部より

## 事業計画・事業報告

月	日	事業内容
4	2	会計監査
	13	第1回役員会
		理事会
	20	卒業半世紀世話人会
卒業四半世紀世話人会		
5	3	開校ゴルフ大会
	4	総会(ザクラウンパレス新阪急高知)
6	1	奨学資金貸与募集(1年生 6/18~6/30)
	4	幡多支部(波多愛校会)総会
	21	大阪支部(鯨工会)総会
7	5	第2回役員会
	12	東海支部(南風会)総会
	18	「工業ハ富国ノ基」読書感想文優秀作品表彰
9	1	奨学資金貸与募集(全学年 9/1~9/30)
	13	安芸支部(芸工会)総会

月	日	事業内容
10	4	体育祭(競技参加)
		東京支部(桂工会)総会
	18	次年度卒業半世紀世話人会
11	1	次年度卒業四半世紀世話人会
	7	物部川支部(旧香美郡)結成打ち合わせ会
	15	土木科同窓会総会
	16	静岡支部(静桂会)総会
	22	嶺北支部(吉野川会)総会
12	22	第3回役員会
	27	轟組同窓会
2	-	室戸支部(室戸鯨工会)総会
	-	同窓会会報(第54号)発送
	-	四電高知支部総会
3	19	同窓会入会式・各支部と生徒との懇談会
	1	卒業生へ記念品・同窓会通信の配布

## 平成26年度役員

役職	卒年・科		氏名
名誉会長	昭和53	情報技術	横畑 健
会長	昭和39	機械	包國 勝
副会長	昭和36	電気	森本 征彦
	昭和36	電気	山本 良一
	昭和38	土木	徳弘 昭宏
	昭和46	電気	吉永 洋一
	昭和46	工業化学	長滝 猛
	昭和50	工芸	手島 健司
	昭和51	電気	藤原 善行
	昭和56	建築	筒井 眞二
	昭和59	土木	宮崎 功司
			田頭 克文
	平成2	建築	松本 達也
		山崎 貴雄	
監事	昭和49	電気	檜井 孝信
	昭和54	機械	岡崎 良介
事務局長	昭和39	電気	澤 俊雄
事務局次長 (会計担当)	昭和46	電気	矢野 元朗

同窓会組織			
名 称	役 職	氏 名 (卒年科)	連 絡 先
同窓会本部	会 長 事務局長	包國 勝 (昭39キ) 澤 俊雄 (昭39テ)	☎088-831-4133
茨城支部 (梅工会)	支部長 事務局長	高木 澄夫 (昭45キ) 中野 正文 (昭53キ)	
東京支部 (桂工会)	支部長 事務局長	谷岡 健吉 (昭41テ) 岩崎友太郎 (昭40コ)	
静岡支部 (静桂会)	支部長 事務局長	小川 純一 (昭37キ) 片岡 結 (昭42テ)	
東海支部 (南風会)	支部長 事務局長	松村 司郎 (昭36テ) 金田 耕喜 (昭48テ)	
大阪支部 (鯨工会)	支部長 事務局長	堀田 秀雄 (昭43ト) 杉山 康弘 (昭61ケ)	
室戸支部 (室戸鯨工会)	支部長 事務局長	山本 總 (昭54ト) 前田 康司 (平3カ)	
安芸支部 (芸工会)	支部長 事務局長	高橋 雄 (昭32カ) 黒岩 良行 (昭40テ)	
嶺北支部 (吉野川会)	支部長 事務局長	西村 行雄 (昭37ト) 川村 博彦 (昭51キ)	
幡多支部 (波多愛校会)	支部長 事務局長	福田 充 (昭44ケ) 小笠原 武 (昭52テ)	

### 同窓会本部

本部へ御用の方は、下記時間帯にお願いします。  
毎週（水曜日・休日・祝祭日を除く）

**11：30～15：30**

### 開校五十年誌の電子書籍化



創立100周年記念事業  
業余剰金を活用して、  
開校50周年誌の完全複製版を作成し、併せて  
電子図書としてDVD  
化しております。

DVDをご希望の方は、  
予約を受け付けて  
おりますので同窓会本部  
までお問い合わせください。  
(手数料・送料込み1,000円)

### 創立100周年記念誌 頒布中

残り700冊限りとなっております。  
記念誌をご希望の方は、3,000円  
(手数料・送料含む)にてお送りします。



# 高知県立高知工業高等学校同窓会会則

## 第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は高知県立高知工業高等学校同窓会と称する。

(目 的)

第2条 本会は、会員相互の親睦と向上を図ると共に、母校の隆盛・発展に寄与することを目的とする。

(本 部)

第3条 本会は、本部を高知市棧橋通2丁目11番6号高知県立高知工業高等学校におく。

## 第2章 事 業

(事 業)

第4条 本会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 会員の連携と親睦を深めるための事業
2. 母校の事業支援
3. 会員名簿の作成
4. 会報の発行
5. その他本会の目的達成に必要な諸事業

## 第3章 組 織

(会 員)

第5条 本会は、次の会員をもって組織する。

1. 正会員
  - (イ) 高知工業学校を卒業した者
  - (ロ) 高知工業高等学校を卒業した者
  - (ハ) 高知市立高知工芸学校を卒業した者
  - (ニ) 高知市立工芸高等学校を卒業した者
  - (ホ) 高知工業学校工場見習修了者及び技術員養成所修了者
  - (ヘ) (イ)、(ロ)に在籍した者で役員の推薦により会長が承認した者
2. 特別会員
  - (イ) 本校に特別縁故のある人で役員の推薦により会長が承認した者

(役 員)

第6条 本会は、次の役員をおく。

1. 会 長 1名
2. 副会長 若干名
3. 事務局長 1名
4. 事務局次長(会計担当) 1名
5. 監 事 2名
6. 理 事 若干名

(役員の仕事)

第7条 本会の役員は次の仕事を負う。

1. 会長は、常任役員会を招集し、会務を統括し本会を代表する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長不在若しくは事故ある時は、その仕事を代行する。
3. 事務局長は、事務全般を統括する。
4. 事務局次長は会計事務を担当する。
5. 監事は、会計を監査する。
6. 理事は理事会に出席し、常任役員会の諮問事項を審議する。

(役員を選出)

第8条 本会の役員は、次のように選出する。

1. 会長、副会長及び監事は理事会において正会員より選出し、総会の承認を得る。

2. 理事は、正会員の中から会長が委嘱する。
3. 事務局長、事務局次長は、正会員の中から会長が指名する。
4. 母校校長を名誉会長に推薦する。
5. 母校副校長、教頭を副会長に推薦する。

第9条 本会に顧問及び相談役をおくことができる。  
顧問及び相談役は、常任役員会または理事会の推薦により会長が委嘱する。

(役員任期)

第10条 事務局長、事務局次長以外の役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

## 第4章 会 議

(会 議)

第11条 本会の会議は、総会・常任役員会・理事会とする。

(総 会)

第12条 総会は、本会の最高議決機関で、会長がこれを招集する。

(常任役員会)

第13条 常任役員会は、会長・名誉会長・副会長・事務局長・事務局次長・監事で構成する。  
常任役員会は、本会の執行機関で、その任務は次の通りとする。

1. 総会で議決された事項の執行
2. 総会に提出する予算の編成、事業計画の立案、報告書の作成
3. 予算の補正並びに決算書の作成
4. 本会則の改正案の作成
5. その他必要と認める事項

(理事会)

第14条 理事会の構成は、顧問、相談役、理事、常任役員とする。  
理事会は会長が招集し、常任役員会の諮問事項を審議する。

(会議の議決)

第15条 議決は出席会員の過半数による。

(支 部)

第16条 本会には、会員の多い地域・職域に支部を置くことができる。  
支部には支部長をおき、支部長は会長の委嘱により理事となる。

## 第5章 会 計

(運営経費)

第17条 本会の運営経費は、入会金・会費・寄付及びその他の収入をもってこれに充てる。

(会計年度)

第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日をもって終わる。

## 第6章 会則の改正

(会則の改正)

第19条 会則の改正は総会において、出席者の3分の2以上の賛成を得なければならない。

(付 則)

昭和29年11月25日改正  
昭和43年5月4日改正  
昭和44年5月8日改正  
平成3年5月4日改正  
平成7年5月3日改正  
平成23年5月4日改正  
平成26年5月4日改正

# 高知県立高知工業高等学校同窓会個人情報保護に関する方針

高知県立高知工業高等学校同窓会（以下「同窓会」といいます）は、個人情報の重要性を認め、以下の方針に基づき個人情報の保護に努めます。

同窓会は、会則の第2条「本会は会員の親和並びに母校の隆盛を図ることを目的とする。」の目的を達成するための事業を運営していくにあたり、「個人情報の保護に関する法律」を遵守するため、以下の「個人情報の保護に関する基本方針」を制定し、会員の個人情報の取り扱いと保護について、日本国における法令等に従った個人情報の管理、利用を行ないます。

## 会員の皆さまの個人情報の取扱いについて

ご提供頂きました個人情報に関しましては、同窓会事業にのみ使用させていただきます。

会員名簿への非掲載をご希望の場合は、その旨を同窓会事務局までお知らせください。

もしご連絡が無い場合は、個人情報の名簿掲載をご承諾頂いたものとして従来通りの名簿掲載をさせていただきます。

## 個人情報の保護に関する基本方針

同窓会は、個人情報保護の重要性を認識し、「個人情報の保護に関する法律」及びその他の関連法令等を遵守して、会員に関わる個人情報の保護に努めるとともに、適正且つ公正な同窓会の事業活動を推進します。

### 1. 個人情報の取得

個人情報の取得にあたっては、適法かつ公正な手段で行います。

### 2. 個人情報の利用目的

個人情報は、同窓会会則の第2条に掲げる目的を達成するために、会員名簿の作成・発行、会報及び高知県立高知工業高等学校からの通信文書の送付など適正かつ公正な同窓会の運営に役立つ目的のみに利用します。

### 3. 第三者への情報提供

会員の同意を得ることなく会員以外の第三者に個人情報を提供しません。ただし、利用目的を確認し許容の範囲内で、高知県立高知工業高等学校、同窓会各支部、同窓会役員等に、会員名簿記載事項等の個人情報を提供することがあります。また、会員名簿印刷等の業務遂行上、必要な場合は個人情報の保全管理を外部に委託することがあります。

### 4. 個人情報の管理

保有または新たに取得する個人情報は、これを正確かつ最新の状態に保ち、不正アクセス・紛失・破壊・改ざんまたは漏洩などのないよう適切な管理を実施します。なお、業務遂行上、個人情報の保全管理を外部に委託する場合は、契約書を締結して同様に適切な管理を実施します。

### 5. 保有個人情報の開示、訂正、利用停止等

本会は、本人が自己の個人情報について、開示・訂正・利用停止・消去等を求める権利を有していることを認識し、会員よりこれらの要求がある場合には、法令に従い速やかに対応します。ただし、会員名簿への非掲載希望については、希望時期により対応できないことがあります。その場合、次の名簿より非掲載とします。

### 6. 法令等の遵守・個人情報の保護に関する基本方針の改定

個人情報に関して適用される法令等を遵守するとともに、法令等の改正に従って、この個人情報の保護に関する基本方針を改定するなど、継続的な改善・向上に努めます。

平成19年6月12日  
高知県立高知工業高等学校同窓会

#### ■個人情報についての問合せ先

Tel：088-831-4133／Fax：088-831-4133  
e-mail：kths2004dousoukai@leaf.ocn.ne.jp  
高知県立高知工業高等学校同窓会



## 高知県立高知工業高等学校同窓会

〒780-8010 高知県高知市棧橋通2丁目11-6  
tel 088-831-4133 fax 088-831-4133  
e-mail: kths2004dousoukai@leaf.ocn.ne.jp